大正四年二月一日發行 大正三年一月二十八日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

女子青年界

第拾貳巻第貳號

要目

女子青年會第十二巻第二號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XII February, 1915 Number 2.

萬國學生祈禱日

例年二月最終日曜日を以て萬國學生祈禱日と定めてあるのは諸君の知らるゝ通りである。本年は二月二十八日が即ち此日に相當して居る。我萬國學生青年會同盟では委員長カール、フリース總幹事ジョン、アール、モットの名を以て其趣意書を各國に送つて來た。此趣意書の示す處は、昨年十一月瑞西ゼネバなる萬國基督敎青年會同盟本部より送られたる『靈戰の勝利の爲めに』と同じく、今次の如き振古未聞の大時機に於て、特に神の働らきの著しく世界の局面に顯はれて愛と平和との遍滿する日の近づき來らんが爲めに熱誠を込めて祈らん事である。此日に捧ぐる祈禱が能く人種と國家とを超越して、而かも不思議なる靈能の顯著なるものゝあつた事は過去二十年來試み來つた各團體の經驗して居るところである。

我萬國基督敎學生運動は四十箇餘（交戰諸國をも含む）の諸國に於ける二千五百の各學校に於ける團體の結合せるもので、會員數は學生及敎授を合せ十五萬五千に達して居る。彼等が祈る共同の祈禱は確かに力あるものとして神に執り成さるゝに相違ないと思ふ。

動亂の際であるから基督敎事業が大頓挫を招ぐに至つたと思ふ人もあるであらう。併し眼前に生死の問題が提供されて居る今の狀態こそ眞に宗敎心を養ひ、且つ精神的方面の高調すべき時期に在ると云ふべきではないか。昨日も今日も何時までも變る事なき主耶蘇を中心とする此事業の進展上、此際特に定まれる此日を用ゐて異口同音の祈を捧ぐるは我等の特權にして神の

要求し給ふ事であるに相違ない。熱き祈は力あるものである、希くば受けたる恵を謝し求むべき所を神に訴へたいものである。

感謝の理由

(一) 支那に於ける連日の學生集會の成功ありし爲め。從來此の國の受洗者數の多かりし事は過去 年間に於て特に認められたる事なるが、最近數ケ月間に於ける結果は其の以前の比にあらず。エヂー氏が訪問せし都市の中七個に於ては各一千餘の求道者を得るに至れり。

(二) 羅典歐羅巴、羅典亞米利加に於ける學生間の事業の多大の成功を見たるが爲め。——特に著しきはネープルスに開かれたる伊太利學生同盟の大會、葡萄牙大學に於てワイルダー氏の驚くべき働き、最初の南米大陸大會に於ける靈的力と建設的事業の特に發揮されたる事、及レーキゼネバ、ヴイスコンシシ、及ノースフイールドに於ける羅典亞米利加大會になされたる傳道的奬勵の顯著なる應驗ありし事等のため。

(三) 最近英國及北米に於ける學生有志傳道者の數の激增したる爲め。

(四) 南西歐羅巴に於ける重要なる發展を見たるが爲め。特に墺匈帝國の學生事業を研究する爲め派遣せられたる委員の働きの成功したる事、リゴトカに開かれたる大會、墺太利に對し新に幹事を派遣したる事及バルカン諸邦にアリエ教授を送りたる働の效果ありし事等の爲め。

(五) アトランタに開かれたるニグロ學生基督教大會が能く人種問題の解決に對し一道の光明を與ふるに至りたる爲め、及び信徒たるニグロを促して更に亞弗利加の同種族の狀態を進め傳道をなさんとするの責任を自覺せしめたる爲め。

(六) 目下交戰中なる諸國の學生運動が精神的事業を開始し、且つ戰線にある會員等を助くるの事業の效果ありし爲め。——獨逸學生運動の如きは最も良き實例なり。

祈禱の條項

（一）驚くべき現下の機會を善導する爲め各國に於て特別なる働きを開始するに至らん爲め。即ち前代未聞の此時代を用ひて耶蘇基督に對するの要求心を學生に起さしむる爲めに。

（二）交戰中の學生運動に從事せる役員達の同勞者及會員達が戰線に立てる此場合、青年會が一層の責任を果す爲めに格段なる智慧と力とを與へられんが爲めに。

（三）交戰國の會員等が神と正しき關係を保ち、且基督に對する感化の中心とならん爲めに。

（四）中立諸國にある會員等が基督の同情を以て出來得る限りの助力を與ふる爲め。即ち祈禱、懺悔、犧牲、協力、一致平和等の爲めに力を盡して戰地にある同胞を助けんがめ爲に。

（五）世界の學生基督敎運動に於て基督にある凡てのものを統一する繫ぎが永く繼續し、戰後直ちに平時に回復し其の事業を進捗せしむるを得る爲めに。

（六）全能の神が正しく且永久的の平和を我等に與へ且此戰爭をば善を以て惡に勝つものたらしめ、人類の幸福を圖る爲めに更に堅き關係にて世界の國々が統一せらるゝに至る爲めに。

（七）各國民の間に熱心なる會員の增加する事により神と面の當り接近し飽く迄應驗ある祈禱の捧げられ且彼等の大膽なる信仰が能く失敗を防ぎ萬國民に福音を宣傳する事となり得る爲めに。

右之趣意書に從ひ各青年會各敎會各個人夫々便宜の會合を開いて特に此日を聖別せられん事を切望するもの也。

偉大なる心の人のみ偉大なる事業をなし得べし人は謙遜の門より偉大に達す。
自由は法律なき時に成るものにあらず而も善法の運用に於て成るのみ。

（松榮譯）

隅の首石

河井道子

米國加州桑港に於て二月廿日を以て開會する巴奈馬運河開通記念の大博覽會の事又日本よりは瓜生大將が日本副總裁として御夫人御同伴して二月上旬に渡航さるゝ等の記事は常に新聞紙上で見ることでありますが此大博覽會の全規模が如何に宏大なるか、各建築物の美術的なる所は、我等大正博覽會で仰天した樣な小見地にあるものゝ想像だに出來ぬ處でありましよう、又此大博を記念祝賀會とする巴奈馬運河の大工事の歷史は自然界と開戰せし人智敢爲の凱旋であり、其中には血あり淚ある種々の物語は小說以上で厶います、實に人間の雄大偉力を充分に發揮したものであります、他日誌上に此歷史の幾分をも紹介せんと思ひますが、今讀者に記憶して戴き度い事は、かくの通り巴奈馬運河が完成して世界貿易の發展を來たし、通行に便を與へ、國防に利あらしむる等、樣々の恩惠が萬國に降ります事ですが是には幾多の貴重なる生命が犧牲に供されたと云ふ實事であります。聖書にある家の隅の首石は隱し處に置かれあれど是なくては家の建築は出來ないのであります如く隱れたる大犧牲が巴奈馬に拂はれて始めて工事が出來たのであります。

扨、巴奈馬地峽一帶は瘴氣と發黃熱との發生地、繁殖地として有名なものでありました、最初此處に運河を計畫した佛國人は何故中途にして放棄したか

に付きては色々の理由が厶いますか其最大の理由は此恐しき發黃熱を一掃し得ずして毎年死亡の率を高からしめたからであります、此に於て北米合衆國が千九百四年に佛國より工事を買取り新規に着手せんとするや、先づ第一着に衞生局は莫大の金額を投じて極力、熱病の驅逐排除に努力したのであります、同局の運河の横斷するパナマとコロンの市中に水道を引き、排水を整へ、道路を敷き沼地を乾かし、溜池に藥品を散布き、各戸を消毒し病院を建つる等に努めて、死の地を健康地と變化せしめし功績は嘆賞すべきものであり、又是が爲に過去十ヶ年に於て米國政府は四千萬圓の巨額を惜まずに投じた事も敬服すべきではありませんか。如斯最初に於て衞生に注意を拂ひたればこそ運河の完成を見る樣になつた次第であります。

一體此致命的なる發黃熱の源因は何ぞや、又瘴氣の治療法如何は醫學界に於ける永年の宿題でしたが一千九百一年即ち米國が運河を開く僅三年前に始めて、解決されたのであります。今爰に其道筋を略記しますと、西暦一千九百年北米合衆國の軍隊が西班牙と戰爭後尙玖馬を鎭靜中に都府ハバナに此發黃熱が發生して非常の猛勢にて傳染するので、軍隊中にさへ千六百人の患者が出で其中二百三十一名は死亡したのであります、軍醫は必死になつて治療を施さんとしましたが皆無效で終に手を空して死者の傍にあると云ふ狀態でありました、そこで、任務中なる四人の大軍醫は大研究を始め出しました、尤も以前より此熱病はマラリヤの如く蚊の一種が媒介するなりとの說はありましたが、又バクテリヤも病毒の傳染者と見做れても居りましたが、此等の學說を論證せんために研究が開始されたのであります、試驗の結果バクテリヤ說は破れて、蚊との說が勝利を得ましたが、尙委しく試驗を致しませんと不明了の點が殘るのであります、然し是は人命に關する事ですから、他人を試驗にあてるわけにはゆきませんので、軍醫達は御互に試驗さるゝ事と決しました、彼等は

此大膽なる決心や最も貴き犧牲を少しも公言せずして彼等の間に秘密にして置いた事其丈でも實に偉大ではありませんか。普通一般の者は大概世人の拍手喝采によりて始めて大膽と稱せらるゝ行爲を敢てするものであり、眞個の大人物は其正反對に、所謂聖書の「隅の首石」として隠れたる處に於て大犧牲となつて人道の進歩を計つて居るのであります。

まづカロール軍醫が受驗者となり熱毒ありと確定されたる蚊に刺されしに直に激熱を發し純然たる發黄熱患者となり恢復の望み絶えし程の重患なりしも幸に生命を保ち得ました、爰に於て貴重なる新發見も出來たのであります、次にラヂル軍醫は一日熱病病院にありて患者の血液試驗中、一疋の蚊が手に止まりて甚しく刺しましたが蚊のするが儘に任せて其活動を熱視し研究の好材料を得ました併し彼は數日を經て發黄熱に罹り終に是が爲、否職務のため、否人道のために死亡したのであります。斯る大犧牲によりて

第一、或一種の毒蚊が熱病の媒介者なること

第二、此蚊が患者より血液を吸ひて數日經るに非ざれば假令又人を刺しても無害なること

以上二項が明了にはなりましたが第二の點に尚少々不明の餘地がありました。それで當時の總督ウード氏が此研究を奬勵せんために義勇士を募り一人に四百圓の賞金を附しました。ラヂル軍醫が蚊にて殺され、他の軍醫が殆んど死せん計の試驗をうけし事自然と軍隊中に知れ渡りし間際にも拘らず多くの兵士が試驗の志願をしたことは永久に米國軍人の名譽であります、彼等の中第一に志願せし二人の兵士は、軍醫の前に進み出で我等は勇み喜びて如何なる試驗にもあづからんが爰に只一の條件あり即ち一文の賞金も拜受せずとの此條件なりとの言葉を聽くと軍醫は帽に手を翳して「紳士達よ、予は卿等に敬禮を表す」と申した美談は萬古に傳ふべきものと思ひます。かくて青年二人は入浴後、下着一枚にて試驗室に這入り十數ヶ所を毒蚊に刺されました、蚊は病に感染

して日數の經たるものと經ざるものと色々に區別されてありましたが醫師の推定せし通りの現象を呈し二人は終に發黄熱となり死に瀕する計りでしたが一言も呟く事なかりしとは何と見上げた行爲ではありませんか。

其次の試驗は此熱病は患者よりしても又傳染するか否とのことでありました、又兵士中勇みて此試驗に應じたものが多數でしたのは感激に堪えぬ處です彼等中より拔擢されし七人は重患者などの身につけし衣類、夜具等を纏ひて隔離されし病室に廿日寢食したのであります。何とした道德的の勇壯敢爲でありましよう、消煙彈雨、大艦巨砲の中に名譽の戰死を遂ぐる固より悲壯雄偉でありますが、隱れし場所にて靜に人道のために生命を捨する確乎不拔の精神に至りては人間をして神聖とならしむるものと信じます。扨七人の兵士は廿日間の後一人も熱に感染することなく平日の通であつたので此發黄熱は蚊だけが媒介者であり病人は傳染させぬとのことが證明されたのであります。

以上の色々の試點にて玖馬は僅三ケ月間にしてハバナ市より發黄熱を驅逐して仕舞ひ瘴氣の數は減ぜられ三ケ年にして三百二十五人の死亡率が四十五人になりし事實は如何に衛生局が活動したかを語つて居ります。

其故に米國が巴奈馬に着手する矢先に、玖馬に於けるホヤ／＼の新制度に倣ひて、地峽住者の健康を調査し、工夫、技師、役人の衛生に注意して大活動をした結果をして死の谷、病の床とさへ渾名されし巴奈馬一帶が目下は熱帶地の保養地と歌はれ、爲に世界の最大工事なる運河の竣功を見るに至つたのであります、其紀念祝賀としての桑港大博、深い／＼意味を表して居ります、貴き犧牲を拂ひたる結果は只に巴奈馬運河だけに止まるものではありません、かゝる病根の退治さるゝ樣になりますれば全世界か將來幾多の祝福にあづかるかは私共の小な智惠で想像もつかぬ處であります、巳が生命を完ふせんとする

者は之を失ひ、是を失ふものは是を得んとのキリストの御言葉は大發見者、大犧牲などに適應され益々新規の意味を其中より見出します、又家匠工の捨てたる石は家の隅の首石となるとの御言葉も意味深長であります、隱れし處に幾何計か多數の世界的恩人があるかわかりません、御互にかく無事平和に着し得るために如何程かの大犧牲が我々の知らぬ處に拂つてあるかしれません、無事に勉學する、病氣がない、衣食住に不自由がない、良き本がある、良友、良師、慈愛深き親、兄弟がある、美しき天地を見る眼、聽く耳、罪を悔ゆる心、赦さる御慰、靈肉の救皆々無意味に降り來りしものではなく高き貴き神に大犧牲の拂はれしことを悟り度く思ひます、希くば私共も智能才機に於ては何の貢献をなし得ずとしても必らず已が受けし賜に相當したる貢献は出來ます、隱れたる處にて盡すべきことが山々あります、道徳的勇氣は女子にも神を信じたものには充滿すべきであります、女子は戰地にて兵士として働く事は出來ずとも神の勇士として精神的に勇氣を顯はすことが出來ます、何卒私共をして一生涯已の爲にのみ生き已の爲にのみ死ぬものとならしめ給ふなかれと祈り度ではありませんが、特に二月の最後の日曜日は萬國學生の祈禱日であります、形式を捨て眞心より萬國の青年男女の爲に祈るは陰徳の大なるものと云ふて差支へがないと信じます、祈禱はよし、然れども自分の爲、自分の關係する事物のためのみの祈禱は異邦人の祈と何の異る處あらんやと神は申されましたが、廣く人類の進歩、人類の救、人類の神化せんことのために祈ることを學び度いと存じます、諸姉よ、我々も知らざる人々の恩人仲間入をせんために努力しようではありませんか。

人を起たせんには已れ先づ彼等に優るものたらざるべからず。

賢人の心は珠玉の寶藏の如し、すべての玩物は抗除せらる人の價値は彼の享けたる艱難によつて量らる。

（松榮譯）

總ての事の根本

植村正久

凡そ神によりて生るゝ者は世に勝我儕をして世に勝たしたる者は我儕が信なり誰かよく世に勝たんイエスを神の子と信ずる者に非ずや（約翰第一書五ノ四五）

蓋はかれ聖書を引てイエスのキリストなる事を示し人々のまへにてユダヤ人を甚く辨折たればなり（使徒行傳十八ノ二十八）

それ神は其の生たまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり此は凡で彼を信ずる者に亡ぶる事なくして永生を受けしめんが爲なり（約翰傳三ノ十六）

我々と神との關係はまことに親密なもので我々は神の御恵によりて生きて居るので例へば胎内に居る子と其の母親との關係或は魚と水との關係の如きものである、併し我々は神の御恵によりて生きまた働く丈では物足らぬ一層深き所まで徹底せなければならぬ。

我は社會に無事に生存し得ると云ふのは直接或は間接に社會より多くの恩澤を受くる事と、また種々なる關係上よりしてである、併しかく社會に無事に存在し得るからと言つて滿足する事は出來ぬ、我々は若し眞に親しい父母兄弟夫婦乃至心を打明けて語るべき友達もないならば、たとひ此の東京の樣に二百萬からの人の中にかこまれて居ても矢張りつまらないものである、或はまた同じ列車の一室に豪傑と乘合つて居ても、たゞ椅子をならべて居る丈では何にもならぬ、併其人と漸次に話をし其人の計畫志望等を聞き、自らも其の仲間になり、かくて自らも

偉くなり將來が賴もしくなり其の人の驥尾に屬してても自分も亦青雲の志をのばす事が出來るのである、人間が神の惠を受くるも同じ事である、信者も未信者も神の惠によりて生きまた働くので、言はゞ同じ列車に一所に乘合せた位なものである、我々が此の社會に出入し互につきあつて時々相當の禮儀をつくして居る位な者でどうも物足らぬものである、例へば路加傳十五章を讀むと二人の兄弟の事について書いてあるが、其の二人は共に親の家に住み大變にむつまじく他より見ると、羨ましい何不自由なき家族關係の樣に見えるけれども、後の話を讀むとまだ至らぬ節のある事に氣がつく、兄は眞に父親の心、人格、深い性質もわからぬ此れにつかへて居ても後にぼろの出る樣な有樣、弟も多分同樣な有樣であつたらうと思はれる、親に願つて分けてもらつた財産をつかひ果たして大變に墮落した、けれども人窮すれば元に歸る、苦んだ後に本心に立ち歸つて自分の家に歸つて來た、面目なくうなだれ勝で歸つて見ると親は喜びに滿ちた慈愛あふるゝ許りの有樣、弟には此所で始めて正しく親がわかり自己がわかり新しくなると同時に、親もまた新しきものと自分には思はれた、此の場合に兄なる人も亦弟の有樣を見て、親心とは斯かるものか、我が父は斯かる深き切なる愛を有つて居られるのかと、弟の身上から今度は自らも親しき精神になつて、小供らしい親の子らしい有樣に上り得る機會を兄は與へられたけれども、此の兄はさうは考へなかつた、良くなるべき機會を與へられて居ながら、ぐず／＼してると元のまゝでは決して居ないものである、斯かる惡き心ありとは見へねど斯る惡心がある、キリスト教は唯「彼れによりて生きまた働く」丈ではなし、神は大なる犧牲を拂ふて我々を救ひ給ふので我々はかく救はるゝ事によりて永生に入る事が出來るのであります、茲に至つて成程神はかくまで我々を愛し給ふかと言ふので其の限りなき慈愛の程、また此れによりて我々人類をいかなる者になり得るかと云ふ神の我々に對する御理

想また恩愛等を悟る事が出來る。

神我れを愛し給ふならば必ず我れの如き者でも救はれる、眞にイエスの如き心にされる、神の子として生存し得ると云ふ見込がつく、夫れで喜んで實に枯木に花がさく如く泥中に泳ぐ鮒が清水の中にはなされた如く、喜んで全心全力を盡して此れに從ひ、神によつて示されし目標に進まんとするので、つまり信仰は神が我々に自らを現し我々が爲す可き事を敎へ、また我々に喜ばしき御約束を與へ給ふのである、我々人間の理想は神の約束であると思ふ事である、單に我々が考へて斯くある可き筈であると定めるのも、理想には相異ないが、併し夫れよりはかくあれかしとの神の仰であると考へると自己の理想が即ち神の御約束となる、自らの考出した考であると考へるのと神が掲げ示して斯くなれかし必ず此の志を遂げる樣に進めと命じ給ふのであると考へるのとは雲泥の差がある、神の威德我々のよるべき道また喜ばしき御約束と心得た場合、理解の出來た場合に始めて眞から祈る氣が起る、或る偉人に出逢ふて其の人の志を聞いて仲間になる、自分の樣なつまらぬ者でも同志に數へられると云ふは幸であると云ふ樣な意氣精神で神の提案に乘氣になる、力をつくして仕事に從事せんと云ふ心持になる、此れが即ち信仰である、かかる信仰のある人とない人とは大變な差異である、我々「神に於て生きまた働く」丈ではならぬ、時には有神論も聞き、宗敎哲等も學び、天道は賴もしくもあるが併しまた恐ろしいものである、此れに逆へは亡び從へば盛るものであると云ふ樣な心で一通り世間を通つて行く事も出來て、併しそれはさきに例に引た二人の兄弟達が、親のなさけにふれなかつた時の有樣である、併し我々は我々が一旦神の深き御慈愛にふれると、飜然として我々は神が我々のまへに提供し給ふ理想に何事をおいても喜んで從はんとする志が生ずる、只感ずるのみでない、神の理想に對し我が一身の行先につき感激しつゝ元氣になつて進むので、信仰あれば其人は即座に正し

き人間である、其の志はまだ遂げられなくとも既に新しい人間である、アブラハムがカルデヤのウルに居た時、彼れは其所に居ると先途望が多い、他人なみに落付いて居られたけれども、彼は神の聲をきいて新しき天地を開拓して新しき國民の父となつた、若し此の場合にアブラハムが面倒であるからとか、また困難な事であるからと云ふので、よしてしまふたならば、どうであつたらふか、後に名をあげる事も出來なかつたらう、大なる歴史を作る事も、否また神の友と呼ばるゝ光榮をになふ事も出來なかつた事であらう、かく敎へられた場合に自分は面倒だからと云ふ樣な事で、或はまた種々なる原因で御免を蒙ると云ふ事になると、茲に明白に神と仲違を生ずるわけになる、かくすると意識せぬ時代とちがひ速力を速めて神に遠かるのである、アブラハムは神の友と呼ばれた「朋友有信」神の志がわかる、我々に對する期待方針がわかり、またこれを成就する爲に神が力を添へ給ふ事がわかる、これ神の友となる事である、斯る關係を結ぶと結ばぬとは大なる差異がある、つまり基督敎は此の心もとなき解釋のなしがたき人世に於て、其の根本に神の愛あり、殊に主イエスによつて我々は神の子たる美しき姿を示されて居り、且つまた其樣になり得ると云ふ希望を與へられるのである、我々でアブラハムがカルデヤのウルを出た如く、此のけがれた世に暇を告げて何處なるか知らねど、出かけると云ふ程に神の言葉を眞に受ける、世には神の事イエスの事を聞いて、どうしても神の許に來ねばならぬ樣になつても來ない人々がある、これぞ即ち彼れ放蕩息子の兄の如く、年來親の慈愛を曲解し、見きはめがつかぬ許りでなく、もつと惡るくなり、明白に親と仲違をする樣なものである、即ちキリストに於て現はれし福音を拒絶するは永生を受くる機會を失ふ事て、また反對の方向をとればアブラハムの如く、神の友と呼ばるゝ光榮をも有つ事が出來る樣になる、此故にキリスト敎に於ては信仰を重んずるので、人間生活の根本的方針、

生活の分れ目、即ち神に對する態度、又其の心持、神の約束を受くるか、招きに從ふか、計畫にのるか、思ひ立つて從ふか、矢張りもとの所にふら〱して居るか、此れ考へねばならぬ所である、併し先刻の放蕩息子の兄でも弟に爲された親の慈愛を思ふて、新しく親を解しもつと親と日々の關係を深くする事が出來る、けれども此の兄は受けなかつた、かくキリストを信ずるは放蕩息子が家に歸り、今更ながらに親の心がわかると云ふ事である、さうなれば既に人間の靈の關ヶ原はすぎたものである、かく神の敎となる事は人間の進歩發達道德總ての事の根本である、かく事が根本的に定まると云ふ事が信仰によりて救はるると云ふ事である、障子の切張の樣に部分的に酒を飮まぬ煙草を吸はぬ位の事でなく、根本的にどん底より生命の革命をする事が必要なのである。(文責在記者)

光と燈臺

三谷民子

馬太傳の五章十三節以下を御讀みになると光についてキリストの仰せられた事がのつて居ります、英國のエデストンと云ふ所に一の燈臺があります此の所を水が渦巻て居て大變にあぶない所であります此れを今の樣に電氣などの設備のない頃の話でありますが此の燈臺の燈臺守が或日急用が出來て陸に行かねばならなくなつて出かけました、所が燈臺守が出かけて間もなく急に天候があしくなつて風さへ烈しく出て來まして大變な暴風雨になりました、所が此の暴風雨の爲に燈臺の硝子が一枚破れました何かで此れをふせがなければ燈が持ちませんので留守をして居りました妻子は油罐のふたを破してブリキの板を其破れた場所にはめて置きました所が翌朝になつて見るとブリキの板の張つてあつた一方丈を光が充

分に通らぬ爲に大變に破船した船があつたと云ふ事であります、私が「光と燭臺」と云ふ題を選びました理由は我々信者は神樣より光を輝かせよと云ふ御命令を受けて居る許りでなくまた我々自らが光を輝かし度いと願ふて居る者でありますが而し我々は時に神樣より能へらるる光を桝の下に置きはしないかと云ふ事を案たからであります、此所に用ひてあります升と云ふ字を原語で見ますとランプの大さの物と同じ分量の物を入れ得る大さの箱と云ふ事であります即ち照り返しの出來ぬ物の事をさして桝と申したのであります、聖書にも書してあります樣に我々は燈を臺の上に置きますならば家中の物を輝かす事が出來ますが而し我々は時々わざとしたのでなくて知らず〳〵桝の下に燈を置く事がありはしないでせうか。

自分が考へて種々の點で上達して居ると思ひました總ての事祈りによつて定めて居つてももし一方に於て缺點があるならばエテストンの燈臺の如くわるい結果を持ち來す樣な事がないとも限られません、私共婦人として光を覆ふ落ち入り易き缺點は因循と云ふ事であります何か會へ御招を受けましても女が餘り人樣の前に出るのは見よい物でもないからまあ御斷りし樣と云ふ考が先づ先に浮ぶ而し此の考を眞によく考へた上で良心の命ずる聲かと云ふに決してさうではない、よく考へて見ると自分の樣な者にでも神は何か御用があるので斯く命じ給ふのであるから行かねばならぬと云ふ良心の聲をあざやかにきく事が出來る事と思ふ、テモテの如きポーロに愛された者でも此の罪に陷つた「汝が受けし神の惠を再びさかんにせん事を云々」と云ふ事が聖書の中にある此所に用ゐてある盛にすると云ふ字は原語では消えかゝる火を再びかき立てゝ盛にすると云ふ雄大なる意味があるテモテ後書一章の六七節を見ると「此故にわれ汝をして我が按手によりて汝が受けし神の賜を復熾にせん事を欲はしむそは神の我儕に賜へる靈は臆する靈に勿ず能と愛と謹の靈なればなり」とかい

てあります、私共には此の場合に如何なる燭臺が必要かと云ふに眞面目なる勇氣ある燭臺が必要であります、因循姑息なる燭臺を去つて此の燭臺を用ふる事によつて始めて人々のまへにキリストの光を充分に輝かし得るのであります。

第二キリストの敎は愛の敎でありますコリント前書十三章を御讀みになりますもキリスト敎の愛と云ふものか如何なるものかと云ふ事が殘るくまなく說れて居ります人間と云ふものはよく人に何かされた事を許す事が困難なものであります、自分も許してあげねばならぬ忘れねばならぬと思ひながら人を許す事が出來ないで何時までも／＼人の罪と覺えて居る事がありますが此れはまことにわるい事であります私共はペテロがエス樣に「主よ幾度まで人の過を許す可きか」と御尋ねしだ時に主が「七度と言はず七度を七十倍せよ」と仰せられた事を思はねばならぬ若し私共が眞にキリストの愛に感激して居る者ならばキリストの愛によつて棄て去らねばならぬ筈であります、また世の中には一々解釋付の人がありますあの人は氣は短いが決してわるい人ではありませんと云ふ樣な解釋を附る必要な人があります此れもまことに困つたものだと思ふ、私共はコリント前書にあげてあるキリストの眞の愛を有せば苦しき事も厭な事も總てをする事が出來るわけまた人の罪を許す事も出來ると思ひます、キリストの愛と云ふ事について私は米國の一友人の話をし度いと思ふ、此の友達は何不自由のない立派な家庭に人となつた人でありますか常に非常に慈悲の志が篤く學校に居りました時から自分は、黑奴の孤兒の爲に働き度いと言つて居りましたが遂に學校を出ましてから南部の方の洲に參りまして此の美しき仕事を始めました自分にも時々よく孤兒を膝にいだいた寫眞などを送つてくれましたが或時手紙をよこして次の樣な事をかいてよこしました、或夏の始の事であつたさうであります其の世話をして居ります孤兒の中に一人大變に氣むづかしい子供が居ましてまた其の兒は顏面に

一ぱい腫物が出來てまことに見にくい顔付の子でありましたさうです、で其の子がいくらよく世話してもなかなかなづかなくつて困つて居りました丁度其日も其の兒をいだいて廊下の椅子によつて居ります中にふととろとろと眠つたらしかつたすると夢を見たすると其の夢では自分と其の子供との位置が取りかはつて自分が誰れかのひざにいだかれて居る所であつたすると大變に氣高い容貌の人—多分キリストであると思ふが自分のうしろに來て「然ど我を信ずる此の小子の一人を礙す者は磨石を其の頸に懸られて海の深に沈られん方なほ益なるべし（馬太十八章の六）てふ句を暗誦されるのをきいてはつと思ふて目をさました思はず膝に抱いて居た兒を抱きしめると其の兒も何とも言はれぬ可愛いゝ顔をしてにつこりと笑んだ此れから本當に其のみにくい兒をも愛する事が出來る樣になつたと言つてかいてよこした今迄とても此の友の事業は總ての點に於て發達しつゝあつたけれども私は此友の眞の仕事は此の時に—此の二人の間が愛の美しい紐で結ばれた時——始めて眞の精神を現はし得た事を信ずるのであります。

第三は隨分學問もある世に名も知られた人々の間にもよく知られた桝であります、自己の信ずる事また自己を信ずる事が餘りに强い爲に人の言葉に耳をかさぬと云ふ事即ち自重心の濫用であります、此れについて聖書はいかにいましめてあるかと申しますと「汝等相互に隣人の德を立ん事を追ひ求むべし」（ロマ十四章十九）とかいて御座います、隣人の德を立てんとせばキリストのおだやかなる優しい德を現はさねばなりませぬいかに自らが日に日に神のまへに進みつゝありとも世にある總ての德を一身にあつめる事は出來ないものであります故に私共いかに自らが智德すぐれて居ると信じても謙遜と云ふ德を消さぬ樣にしたいものであります。

第四に婦人として消し易きまた我々のおち入り易き桝は何であるかと云ふに夫れは取越苦勞と云ふ桝であります、或人が人に金を借りると云ふ事程馬鹿

らしい事はないと言ひましたが夫れにもまして馬鹿らしいのは取越苦勞であります或人は來年の事まで借りて來て心配してる此れはよく吾等婦人の特に過ち易い點であります、また詩篇の三十七篇の八節を御らん下さると「怒をやめ忿恚をすてよ心をなやむる勿れこれ惡を行ふ方にうつらん」と云ふ事がかいて御座います此れもまた私共が注意せねばならぬ點であります、よく私共の間に顏さへ見れば何かしか不平を言はねばすまぬ人があります、自分の事の勿論人の事まで云ふ天氣がよくつて結構ですと言へばでも日が短くつてと云ふあの方は大變に御琴が御上手で居られると言へばでもあの御聲ではと云ふ様に何かしらきつと云ふ事を見付けて言はぬと氣のすまぬ人がある批評家としてでも世に立つてる人ならばよいでせうがさもなくは此れでは決して世の中を面白く樂しく渡る事は出來ないであらふと思ふ、どうか私共はとげ／＼した事を去つておだやかな喜ばしい平和を世に出し度いと思ふ、私の此所に申します喜と云ふのは物質的の喜ではありません心より流れ出づる眞の光を言ふのであります、西諺に「黑雲のふちは常に金色なるを見よ」と云ふ事があります太陽の光は美しいが中に何か黑い點がある様だなど云ふ様な見方でなく物事を見て行き度い、最後に禮儀と云ふ事について言ひ度い、キリストの物事をなされた致方を見るとまことに美しくおだやかになされて居りますいかなる善事でも致方がわるく禮がなければ充分にキリストの御光を現はす事は出來ません、日本は禮儀の國と外國の人などから言はれて居りますが私が此所に申します禮儀と云ふのはそんな形式的の事ではありません心よりあふれ出る人に知らず／＼に愉快を感ぜしむる様なのを禮儀と申したのであります、日露戰爭が終りをつげましたあとで横濱に大観兵式がありました、其時私も學校の生徒數名と西洋の先生が三名と御一所に横濱に拜觀に參つた事がありました行きも歸りも大變な人でしたが幸に外國人であると云ふ事で特別の取扱を受け拜觀

を許されました其の歸途人が混雜するので早く出て恰度停車場のまへまで來た時に明治天皇陛下が御車で還御遊ばさるる所で御座いました此の身にしむ樣な光景に私も生徒も自然に知らず〳〵に首かさがつて靜かに御通過を待つて居りましたが三名の西洋婦人は日本の習慣も何も知らぬので私共が止める間もなくハンケチを振つて「ハラー」「ハラー」と大聲にさけびました、すると丁度其の時に陛下には此方を向かせられまして莞爾として三度まで禮を御返しになりました、此の三名の西洋婦人は直にハンケチで顏をおふてしまゐました、私共の申します禮儀とはかかる點であります、私共心のない精神のこもらぬ方法は時々反對の結果を生ずる事を屢々見て居ります此の西洋婦人の致しました事を禮儀は形式上から言へば間違つて居つたかも知れませんけれども愛と誠忠の情の發露でありましたから　陛下の御目にとまつたのであります、私共人に神の言を傳へふと言ふ事は眞劍であります、人の家に門のランプから火がついてたのを見て知らせてあげた事が十二三年前にありますが知らぬ家だからかまはずに置くかへつて言ふては失禮だなどとすて丶置けぬ神の光を輝た爲には一分一厘でもすきがあつてはならぬ神の光を桝の下に置いてはならぬボーロはピリピ三章の八節に言つた如くに如何なる少年でもキリストの光をさへぎるものがあれば夫れはすてさらねばならぬそして眞に光を充分に輝し得る燭臺の上に私共の光を置き度いものであります。（文責記者講話大要）

大阪婦人會と三重の傳道

河井道子

婦人傳道會社よりの依賴にて大阪婦人修養會のため一月四日に參りました。夕刻でもあり集會の都合を思ひ川口のプール女學校に參りますと校長その他

の職員は留守ながら林あき子先生が留守番役をして居られた爲、厚き歡迎を受け、溫き夕飯に溫かき部屋、溫かき夜具凡て溫情の內に一夜をあかしました。翌朝馬場靜江姉の訪問をうけ色々東京の話に時をうつして居る間に婦人ホームの奧田文子姉の訪問をうけ、午後は靜江姉の母君に伴はれて二時よりの集會に北敎會に臨みました。

抑々大阪の日本基督敎會は東西南北に分れ北敎會南敎會等の稱名で御座います、正月早々かゝる眞面目なる修養會如きに出席せんは婦人に取つて大決心と向上心とが伴はねば到底決心し得ざるもので御座います。まして大阪の如き繁華なる土地に家庭をもたるゝ婦人方にしてこの集會に列席さるゝ克己心は非常なるものと感服いたしました、會の終るや數名居殘りて夕食を共にし又六時より同所に於て男女合併の集會を開らき、その夜は大阪市の端なる中江百合子姉の御家庭に招待されました、此處は流石に閑靜なるが上御邸宅も廣く凡ての設備完全して疲れし者を癒するには最上の場所の如くに感せられます。翌朝、窓よりあたりの山々を見渡し、奈良行の電車を眺めつゝ愛らしき子供方と面白く打ち戯れ後髪引かるゝ思ひして十一時頃に其處を辭しました。

此度の案內者は馬場靜江姉にて賑かなる通りをあちこちと電車にて馳せ、或る町角に案內されましたが此處は市中一にして二と下らざる梅月庵てふ天婦羅やで、既に英學塾出身者なる林あき子高橋明幸氏は先着され厚き歡迎を又も與へられました。小さき庭や部屋の間取り等古雅にして東京には一寸稀に見るものであります。扨又この天婦羅の味を申せば到底銀座の天さんも及びもつかぬほどで舌鼓高からかに嘻々として御馳走になりました。

抑々讀者中天婦らてふ意義を解せらるゝ方幾人あるや知らまほしく存じます。この梅月庵にて客に呈するナプキンはこれ又風流を極め厚き縮緬紙に月夜の梅を表はし左の文字鮮かによまれました。

天麩羅の原

天麩羅の世に播布せる久し附揚又は揚物といふげに下物中の上品なりき天明の頃浪花に利助てふ人あり吾妻にさまよひ來て京橋のかたほとりにぞすみける其頃戯作の名手山東京傳翁が住居も此のほとりにありければ常に往來して翁に深くぞ愛でらる或時利助魚肉の附あげを調ひて市に賣らばやとて翁に語り、かつこれに相應の名を付け又は看版を書きくれと請ひしに翁うち按じて天麩羅とかきて與へたり利助此の義は何なりと問ひけるに翁笑みつゝいふに足下は今天竺浪人なりふらりと此に來て創て此ものをしける故天麩羅の字を下しけめ乃ち麩は小麥の粉なり羅は薄ものとよむ、小麥の粉の薄のを魚肉にかけたればかくいふなりと利助いみじく喜でやがて賣はじめけるに日々品切れとなる程なりしとぞ、是天麩羅の原にして北越雪譜に詳なりき已これに因て今此に賣鬻ぐや各位の愛でたまふも淺からず昔しにまさる其風味一食萬金丹ならずやまわらぬ口をすべらしけるも又てんぷらにざならずや。

これにも意外なる學問せし心地して二重の感謝を表しつゝ同所を出で此度は靜江姉の父君の牧せらるゝ西教會に伴はれ、又二時よりの講演會を開き親しく姉妹方と信徒の交りをなし之を感謝いたします、殊に心嬉しかりしは林うた子女史に席上にて面會せし事であります、はやき頃より同女史の芳名を耳にし敬慕の念禁じがたく年長ずるに從ひ同姉の社會の各方面特に婦人兒童のために晝夜盡瘁せらるゝに對し感謝に充され居りしも不幸にして未だ女史の溫顔に接る機會のなかりしを殘念の事と思ひ居たる自分に取りては今回の面會は何とも云ひ盡し得ざる喜びでありました、僅かに二三分間の對話なりしも既に舊知の心地し以前にまして女史を敬服するの情禁じがたきを覺えました。時間なしとてせかるゝまゝ案內者にともなはれウヰルミナ女學校に行き校長代理アレキザンドル女史に逢ひ、心込めたる晩餐を戴き又も急ぎて六時の集會に西教會にとつてかへし再び姉

妹方に接する機會を得ました。その夜は濱寺なる友人荒木幸子夫人の元に行き東京の噂に時をうつし心よりの厚遇にあひ夢もむすばざる深き眠りを其の夜はあたへられました翌七日九時に同所を辭して愛らしき四人の子供方に送られて又も大阪に歸へり梅田より東京へむけて出發いたしました。八日の朝着京すれば夜來の降雪、人力車不足とて非常に閉口し却て京阪間の旅行の方停車場より家までの旅行よりやすしと思ひつゝ雪踏み分けて歸宅し九時の開校式に間にあいしを幸と感謝いたしました。

抑々今回の集會は最初より數に於ては少なからん事を豫期して參りましたが思ひしよりは大勢にて且又毎會同じ顏の揃ひし事何よりの喜びでありました神はかく婦人方に眞面目なる心を年のはじめに與へられたれば本年五月に於ける大阪協同傳道は必ず好結果ならんを信仰して居ります。

一月中旬は三重縣協同傳道擧行の日取りなるを以て大阪深田牧師よりの依頼を受け十五日午前東京を出立いたしました。今年は成可く女子青年會及び學校の事とに力を集注してあまり散漫なる働きをせざる様にとの決心をいだき居れば不得止る限り他よりの依頼を拒絶せん願なれども三重縣は己が生地、殊に伊勢は有名なる保守的の地とて傳道の難かしき事全國に比なき評判さへ聞きをる事故、深く己が今日まで等閑にせし罪を思ひ責任を以つて協同傳道に參加いたしました。十五日の午後は名古屋の停車場にて以前英學塾にありし八木順子姉と親しく信仰上の話に時を移し六時近くに金城女學校に車を馳せました。前日來の降雪かな／＼に深く十年になき大雪とかであります、同校は去年暮に新築落成式を行はれし程の事なれば萬事改まり校舍、寄宿舍、教員館全く昔の跡をとゞめぬ様で御座います、その夜はストーブをかこみタムソン氏と青年會の御話をなし、四人の役員と會見して同校青年會の御近況を知り、來る夏期修養會に代表者を選出されん事を願ひ、翌朝伊勢の津市に出立いたしました。津にはモーレー宜

教師御夫婦のあつき歡迎をうけて一休みいたし居る内に、大阪より廣岡夫人の到着となり、急ぎ身支度をなして津市日本キリスト敎會の婦人會に御伴し、先づ三重縣に於ける第一番目の集會に列しました。英學塾出身の横山梅子氏又鹽田たま枝氏(舊井川)等に逢ひ、特に同敎會牧師松本夫人は横濱共立女學校の出身にて在學中は熱心なる青年會々員たりしを以て久々の對面うれしと思ふ間もなく時間に追ひ立てられ名殘惜しき限りに思ひました。その夜は劇場にて公衆のため演說會催され、廣岡夫人、平岩監督等の前座をつとめましたが、廣岡夫人の『信敎の理由』は聽衆に深き感動を與へ必ず好結果を來す事ならんと信じ且祈つて居ります。翌十七日は東洋紡績會社に導かれ、廣岡夫人と共に女工に話す機會をえました。

扨此場所で第一に氣付きしは集まりし女工の顏色美しく讃美の聲に活氣あり、又私共に謹聽の態度は他の工場にて見ざる處で御座いますモーレー氏夫妻は、傳道師をえてこの工場に有効なる働きをさるゝ事敬服の他はありません、彼等の盡力にて數名の信者を女工の間に出し又近々數名の受洗者を加へんとする報を受けます〳〵有望の感があります、此工場は深くキリスト敎の良きものなる事を認識され、信者の舍監さへ要求せらるゝまでになりしとか、又夜分の餘暇にはモーモー氏の家庭に親睦會、或は講演會を催す毎に女工等のそれに出席するを社にて許すなどの寛大なる處置は他になき事と思はれます、聞き所によれば此處には女工のみ四千人にして以前は年に一萬六千個の茶碗を破碎たるもキリスト敎の入りてより僅に六千個となりしとかの事を當局者は非常に喜び、かゝる顯著しき効力のあるものならんにはキリスト敎を歡迎すべしとの意見の由、なか〳〵面白き物語の材料と思はれます、我國工場の改革は是非とも間接直接にキリスト敎徒の双肩に懸つて居ると思ひます。若き姉妹方はこの等の事を思ひ是非とも其の立場に於て女工問題等の改善のため努力さ

れん事を願ひます。
其日正午の汽車にて山田に向ひ、ミスライカー（宣教師）の御宅に私共二人は歡迎され賑やかなる食事をすまし、直ちに教會に向ひました、會衆の數に於ては決して多いとは申されません、さわいへ山田は傳道の最も困難なる處なればこの集會如き佳良の方なりと聞きなほ前途遼遠なる事を感じました。私の嬉しかりし事は母の里より三里の道を遠しとせずして四人の村人わざ〳〵集會のために出で來りし事であります、彼れ等と母弟の六人を伴ひ共に夕食をなし是非とも近き將來に於いて決然彼等の洗禮を受け村に教會の根據を定めん事を願ひました、神は必ず私共の僅なる努力を無になし給はざるを信じてゐます。その夜は又劇場にて廣岡夫人は「肉か靈か」平岩氏は「宗教と教育」との題目の下に演説會がありました。
津と同樣此處に於ても聽衆は皆至極靜粛の態度にて終りまで謹聽して居りました、信者某は聽衆の間に混り居りしに、傍に二三の酒飲者ありて最初の程は驕慢不遜の言を吐き居りしも、追々容儀を改め、「尤もなり」と點頭きつゝの獨言も面白くおもはれしに又老人の一群は「あの御婆さん六十三で耶蘇になつたのなら俺等も今からでもおそくはない」と語り合つて居つたとかであります。翌朝山田を辭し龜山に到着し直ちに小さい劇場に案内されました、芝居小屋とはよく云ひえしものとつら〳〵其の建物を見てかんじました。實にこれは小屋にて五十疊あまりの床に蓙がしきあるのみ、舞臺は私如き大女の力入れなば床のぬけやせんの恐ある危險の建築で、花道ともおもはしき細き板の間の上あたりに「湯屋連中」よりとの幕がひきまはされ、彼方には「理髮連中」よりとの幕にてやうやく風の入り來るを防ぎある樣純然たる小屋でありました、然るにこの婦人會は津、山田兩市のそれより遙かに盛大にて又來會者の風采も遙かに優等の如く見うけられました、聞く處によれば同所の傳道師田中夫妻御兩人と少數の信者等力

を合せ町内の戸毎に寺をも洩さず招待狀を送り今回の傳道を報告されしとの事、實にこの準備努力事自身すでに〳〵勝利と思ひ敬服いたしました、この場所においてヘール傳道師にはじめて面會を得ました同氏は二十年の昔伊勢に傳道を開始し非常なる困難をもつて山田附近に迫害を受けつゝ傳道の門戸を開始された恩人で御座います、こゝに愉快なりし事はこの先生の傳道を最初助けしは中須春胤とて私の親類にあたりし者にしてこの人より我が家族は始めてキリスト教を北海道に於て聞きし事なれば奇縁と云へばかゝる事を申すので御座いませう、三重縣傳道には尙大阪より宮川、桑田、深田等の諸牧師、京都よりは牧野、武田の兩牧師、名古屋よりは吉川牧師等の援助を得て數日に渡り各所に於て集會を催す事になつて居りますが、私は時間なきまゝ龜山を十八日の夕に出發し十九日の朝課業に間に合ふ樣に歸京いたしました。

扨廣岡淺子夫人は六十七才の高齡を以つてなほ矍鑠たる事到底普通のものゝ及ばざるのみならず日に二回乃至三回の講演に少しの疲勞を見られず赤誠溢るゝ如き熱心にて各所の協同傳道を助けらるゝ事は私共の深く感謝に堪えない所であります、同夫人は女子青年會委員の一人にして色々の方面に盡力されつゝあるを思ひ、なほ一層姉妹方が祈を以て同夫人の傳道に祝福の來らん樣蔭にてお助けあらむ事を私より願ひ申し上げます。

「年少きものもつかれてうみ壯んなる者も衰へおとろふ。然はあれどエホバを俟望むものは新たる力をえん、また鷲のごとく翼をはりてのぼらん、走れどもつかれず歩めども倦ざるべし」。

（イザヤ書四十〇三十、三十一）

新工夫の慈善

河口正子

各國各所にて樣々の目的のために慈善市が催されるは常でありますゝしかし其方法に於ては嶄新なるものを發見いたしません、此頃最近　米國の雜誌に目に止まりし記事がありました故其梗概を掲げて讀者の參考に供し度く存じます

奇なるバザー

昨年十月中十二間ニユーヨーク市に開れた赤十字バザーは嶄新な方法によりて開催されました、先づ市内で有名なる旅館の大廣間に不用品賣拂ひの方針で大規模に計畫されました、其處にある凡ての品物は人々よりの寄贈によつたものであります、眞に高價な古道具類は色々の住宅から參りますし市中の商店からは小賣に便利な小さな商品が寄贈されました。寄贈者の姓名は明かに大活字をもつて諸所に貼付けてございましたので商人の多數はよき廣告の仕處と考へて賣殘りの商品等を此美擧のために寛大に寄贈してくれましたのは一擧兩得と申しませう。ホテルの二階の大廣間に行く梯子の頂上には坩堝、即ち鎔鍋と記したものがあります、こわれた銀器、金細工、使い損じた飾物や、或は古くなつた銀製の食器等、鎔解し、或は拂ふ事の出來る金物を投げ入れる器で御座います、あらゆる種類の連想的な贈物は此處に集まつて參りました、中には結婚の指輪、佳人より送られた飾物、代々使用せし匙の數本、或は黄金を鏤め込んだ古風な髮飾等も混て居りました。

近頃禁酒でも決行したかと思はるゝ一人の老紳士は奇妙な古い銀製の壜を眞面目な態度で坩堝に投げ込みました、そしてそれが他の飾物や愛の形見などゝ推合ひへしあひして鍋の中に横はつたのを見た時、溜息つきつゝ『サヨナラ、汝と私はお酒よりもつとよきものゝために造られたのだ、古い友人よ、多分赤十字社が私共をも改善してくれるだらう』と申して居りましたさうです。

今一個の卓上には手製のジャム、漬物、鑵詰の野

菜などで一ぱいで御座いました、如斯食品を過多に貯へた家々の棚は輕くなりし代りに、買物に巧みな主婦の多數は普通の商店と同じ價ではありながら、眞の手製品で自分等の食料戸棚を滿すを喜び我劣らじと買込みました。御菓子や煎餅なども美しい慈善の名の元に贈られ或は賣られました、然し普通に慈善市が課する樣な高價は何物に對してもありませんでした。二倍の支拂ひを要求する古いバザーは跡を絶ち恰も此バザー[illegible]委員達が生活を幾分か和らげた樣な感があります。

一番變つた寄贈品の内には生物で贈られたもので御座います、馬や牛などではありませんが鷄、鳩、兎、一二匹の犬などで其の主人達が寄贈する事の出來ない金額をこれ等の動物が儲ける事が出來やうと考へついた種々の手飼の動物でした。彼等は早速に賣り切れました、然し唯一羽の喧嘩好な雄鷄のみが殘りましたがこれも遂にこの雄鷄で赤十字の鳥鍋をこしらへるために家に持つて歸へるのだと、云つた若い一人の主婦に買ひ取られました。最も實際的な店は書籍の拾賣であります、誰でも一度讀んだが、わざ〳〵書齋に置く丈の價値はないと云ふ、書物を持つて居るもので御座います。而して古本屋にやればこれ等の本は一冊十錢か二十錢に賣れます品ですからこゝに寄贈されました、かくして數百冊の本は集められ寄贈者も買手も共に大變に喜んだのであります。

クリスマスの贈物船

アメリカは歐州に於ける餓えた口を飽かしめんために穀物を送りました、又大砲旋條銃が與へた損害を回復するために最も熟練した外科醫及看護婦を送りました。而して今米國は歐洲で戰爭のため無一物にせられた婦人小兒のためにクリスマスの贈物を滿載した船を送りました、これは誠に美しい行爲で、これを始めて考へついた人は確かに詩人でありますしかも普通の詩人が屢々缺いで居る常識を備へた詩

人と申してよろしいと存じます、何故かと云へば船が運搬する其の贈物は大部分が温い衣服類ですから感情の物品と云ふよりも、むしろ眞に實用品であるからで御座います、この仁慈的遠征隊の發起者、賛成者はニューヨークからサンフランシスコまでの百九十の新聞社で御座いました。合衆國の政府は此の計畫に非常に賛成をして其がため合衆國海軍少佐シー、イー、コーテネーの指揮の下に石炭運送船、ゼーソン號を使用する事を許可いたしました、此の計畫の發起者なる諸新聞は殆ど八十ヶ個所に受領所を設け人々が何でも寄贈する事の出來る物を集めましたが金錢は受け取りませんでした、合衆國の國民は皆この考案を非常に熱心に賛成し、富者も貧者も同じく先を爭ふて寄贈しましたので、ゼーソン號は直ちに一ぱいになり多くの贈物は返却さなければならぬ様で御座いました。其の贈物の大部分は衣服類、シヤツ、外套、靴下等の類で御座いました。然し受領所の係員は歐洲の小供達を喜ばせるために人形や玩具の蒸氣機關なども受けました。たとへこのクリスマスの季節に歐洲に平和と好意がないにしても、これ等の物により小さい歐洲人は未だ全世界は屠牛場ではなく、且大西洋を隔てた彼方の大きな國には尚平和と好意が存在して居ると云ふ事を思ひ出すで御座いませう。

ゼーソン號は英國人及白耳義人のためには英國フオールマオス港で、佛蘭西人のためにはマルセルスかボードー港で、獨逸人墺地利人匈牙利人のためにはゼノア港で、又塞比亞人、モンテネグロ人のためにはサロニカ港で其の贈物の荷卸をいたしました。同時にロシヤの子供達のために送られた米國の贈物はロシヤ、アメリカ間航路の船でニューヨークから直接アーヂヤンゼルに送りました。

教會、日曜學校、陸軍老兵殊に老いた米國南部聯邦同盟兵などがこの慈善の船の船荷に驚く程の寄附をしたと云ふ事は實に興味のある事で御座います。

米國よりの一信

今こそメリー クリスマス

在米國　渡邊百合

十二月二十五日、クリスマスです、今こそクリスマスと申されます、私は今ニユーヨークのサボイホテルの七階の大きな御部屋にミス、モーゼスと御兩親と私とで居ります、ミス、モーゼスはお父君に本を讀んで居られます、お母様は歐洲の兵士の爲に腹卷をあみながら聞いて居られます、私の學校は火曜日にをはりましたので私は水曜日の午後(二十三日)學校を出立し昨日此處に着しました　ミス、モーゼスが停車場にむかへて下さいまして、私の大好きなペンスベニヤの停車場から此處に自動車で參りました、汽車の中では一寸富久紗のはしを縫つたりしていそがしく過してしまひました。お母様は相變らずやさしく親切にむかへて下さいました。

十二月二十六日、よいお天氣です、窓からセントラルパークがよく見へます、今朝はもうスケイトをして居る人もあります。昨日は朝食にミス、モーゼスのお姉御さんの處へ參りました、かわいらしい二人の子供のクリスマスの贈物をあげるのを見ました、それから教會に參りました、聖公會の事ですから儀式ばつて居りました、立派な教會です、クリスマス禮拜は心に沁み渡りました。午後はグランドオペラでヘンサルとグレッサルの曲を見につれて行つて頂きました、ほんとに驚きましたこれは毎年子供の爲にあるのださうです、御承知でせうが獨逸のはなしで二人の子供が山に苺をとりに參り日が暮れてきたので心配して居た處がとう〳〵木の下に二人とも眠つてしまつたのです、れる前に御祈をしてねました、それで寢て居る處へ天使が澤山來て護つて居るのです。朝、目がさめると魔法使の婆さんの小屋、小屋はお菓子て出來て居つたので一寸端の方をとつて食べたりして居る處へ、魔法使の婆さんが出て來て子供を燒うとする處を一人の子供が其の婆さんを火のなかに押込んで幸に二人の命がたすかり大よろこびで居るのです、お菓子で出來た小屋の外にお菓子で出來た人形が澤山並んで居りました、婆さんが死ぬと同時にその人形が生かへつて皆一緒に踊るのです、子供の兩親は心配してその二人をたづねて來て其の樣子を見大喜びの處、このうちで森の景色が一番氣に入りました、深い森のやうでした、どうしても繪とは思はれません、それに奥の方にちら〳〵と瀧が見えて居つたりして、又一層よかつたのは子供が木の下にねて雲が下より眞暗らになつた處處に少し明くなり今まで森てあつた處に天から段が出來て、天女が大勢棕櫚の枝をもつて下つて來ました、そして寢て居る子供の廻りをとりまき色々の奇麗な踊の樣な事をし他の天女は喇叭をもつて段に二列になつて天から並んで立つてをりました、段の上と兩側はもえたつやうな雲でとりまかれ、丁度繪のやうでした、私自分で私はニユーヨークに居るでせうかなど一寸思つた位でした。昨日午後又グランドオペラにつれて行かれました、カーメンです佛語で歌はれました、少し位佛語を勉强したとて、到底歌などきいてはわかりません、でも行く前に讀んで參りましたからわかりました山の景色などほんととしか思はれませんでした。その歸へりに馬乘稽古場に參りました。ミスモーゼスの父君は毎日其處で馬におのり

になりますからお歸へりの時間でしたのでまわつたのです、六百以上も馬が居るさうです、大したものです、それからセントラルパークを通つて歸りました。この樣な大きな市でもこの公園のすぐ前にこのホテルがありますので空氣はよし割合に靜かです。こゝまで書きましたら教會に行く時間になりました、教會の後に公園を自動車で乘りまわしました大きなものですねあちこちでスケートをして居りました、私の爲に昨日はお催に大勢をお招きになりました、また木曜日の夜には何やら私の爲に食事に招かれるらしいのです、ほんとにすまなくてたまりません、加藤さんに昨朝電話をかけましたが丁度お留守でした明日は歸へられると思ひますから樂しみにして待つてをります。今日は二十七日もう後に四日しか今年はありません、此の日曜日は今年の終りの日曜日、一ヶ年中の事を心に繰り返します、感謝にみち〳〵た此の年を終りますどうか私がこんなに人からよくされるのに價値のある者となるやうにつとめます。こんなに受けてばかり居る身、他の人のためにもつと出來る時がきたらば今の事を忘れずに一心にいたしませう。

一風（ひとふう）變つて愉快です

在米國　加藤高子

お百合さんが休みにミス、モーゼスの處に招かれましたから、又去年の樣な事はなくとも一度逢はれまするど信じて居ります、西野貞子さんは他に招かれたけれど休み中手紙書きや勉强をするからとて辭して學校に居られるとかですから時々面白い事を一緒にしませうと約束して置きました、私の方は明日と火曜日の午前まで課業があります、私の階には私一人、十階にも一人殘る者がありますの。けれど休み中出かけたり勉强したりして面白く出來ますとか。學校の方の試驗は一月にありますのですから其の準備として少しやつて置かなければなりませんの。昨日午後からミス、グレース、ダーヂ（米國女子靑年會々長）のお宅にクリスマスのお催がありました、そして東洋人を招かれました。月曜日にはミス、エリザベス、ダーヂのお宅で東洋の學生のためお催があります。私共は全くお世話になつてますのね、こんなに外國人を親切にする立派な精神を眞似したいものと存じます、此所までは去る日曜日にかきましたが例の腹痛で夢中でかきましたの。今日はもう十二月二十三日となりました、渡米以來此れが第二のクリスマスです、去年はミルオキーでミス、メリルのお宅で、今頃はお百合さんを迎へるので有頂天になつて居りました、今年はニユーヨークの女子靑年會幹事養生所でします、來年の今頃は何處かしらと時々食卓でも話をします。今年のは又一風違つて愉快です。靜に考へて獨りで部屋に居つて神の靜けきお聲をきかれる樣な氣が致しますの、此のおそるべき罪惡なる戰爭の中において此のクリスマスを迎へますのは、何だか深い意味があります。學校の樣子を申上げませう二十一日午前中課業がありましたが午後は歸省する人は荷造りでさわぎでした。私はミス、ダッヂのお茶に參つて留守でしたの。二十二日は課業が十一時半でありましたがそろそろ帽子をかぶつて出かける者もあり手鞄をさげてかへる人もあり、私の隣の者も歸へりますし、なか〳〵淋しくて少々悲しくなりました。私ばかりでなく昨日は南アメリカから來て居る可なり大きな人

などは大變ホームシツクをおこし可哀相でしたから一所に散歩に出かけてやりましてヒイフスアベニーの賑やかさを見て參りましたの、皆あはれです。むりに賑やかにして居ますがさすがにクリスマスには皆故鄕戀ひしい思ひをして居りますの、昨日はほんとにいけない日でした事、昨夜は十二階の居間で冬靑で飾る儀式をしましたの、始めてゞした、家族集まつてするのですから女中もすつかり來ましたの、皆で五十八ばかりでした。食後皆が煖爐を取り圍みましてね部屋を暗くしました、それからミス、アダムスが昔々の話しをしてユーの木と丸太とたきまして短い話がありました、去年アスグードさんの組でした木の片を大切にしまつて置き其れを紀念にして火をつけてやりました。實に奇麗で御座いました、靑と紫の火でれそれから一方の窓の卓上に蠟燭を置いて氣息をかけて、同じく昔の風の物語があつて火をつけ「靜けきこの夜聖きこの夜」を歌ひましてね實に美しう御座いました。それから別室に用意してあつた冬靑で皆で部屋を飾りましたの、それを二十日間其のまゝにして置きますの、見た事もない様な美しい冬靑ですの、田舎の友人から來たのですの、私の部屋にも冬靑があります。隣りの子供が歸省する前にくれましたの　それから皆が植木を注意してくれとて置いて行きましたので部屋は靑々として奇麗ですの。いつもになく今日某夫人の方が數日お招き下さいましたが、もう明日とクリスマスの日は計畫が豫め出來てますから行きたくありませんの、それに皆が行くな行くなと申しますし、私も居たくてたまりませんから多分お斷りします。

小說 ひとりぼつち 後編

河井道子譯

第五章（つゞき）

『今日は』と背後より突然聲をかけられて振向けばチエラード、アラン氏である。ベテーは自分が垣の狹き木戸に倚れて居たので、ア氏が通行られなかつたのだとは少しも氣付かで、急ぎ涙を拂ひ强て笑顏をつくり。

『今日は、アラン樣、何處へ被入いますの？私も御同伴を……』とまで云ひ出して失禮な馴々しい言葉を吐いたことを羞らい『御免下さい失禮なことを申上て、今恰度、誰かと御咄がしたいと思ふて居た咄嗟でしたもので、つい……』

『喜んで御一所に參りましよう私は是から管轄してゐます養老院に入院を申込んだ老婆を訪問しに行くのです』とア氏は微笑を洩しました。

『貴君は養老院を御經營なのですか、何て結構な事でしよう、私は何卒老後を養老院で送り度いと願ひます、平和で氣樂て良いでしようね、同居人は皆老人で暖爐に齧りついては御茶を飲み、編物しては座睡して無氣樂でしよう』

『一度私の院を訪問して期待なさる通か如何かと御實見なさるとよろしい』

『何處に御座いますの？今直ちに參り訪問したのです、私は餘り自分の生涯が空虚で詰らないから何かしたいと今切願てゐたのですさあ御伴致します』

『此處から三哩は充分ありますが歩行ますか』

『今日は止しましよう母にも申てありませんで心配しますと不可ませんから』と談りつゝ二人は青々とした牧場を横斷てゐます。

『何日もの日光が今日は貴女に照らない樣ですね』

『エー？』

『先日御面會たしときは宛然陽氣の神の化身でしたが今日は少し……。

『今日は變に陰氣なのでしよう、實は自分の缺點を思ひましたから妙に氣が欝したのです、私は誰の役にも立ない厄介者で、自宅でも不用の人間、外でも入らぬ者なのです、誰かの御役に立ちたいと其は其は以前から切望てゐますのです。

ア氏の無言は同情からである、彼はベテーの可憐なる告白に動かされたのであるとは氣付かぬ處女は戯言らしく、

『其で萬一貴君が適當な私に嵌りさうな空た片隅を見出しになつたらば、一寸御報知下さい』と語る顔を凝視たア氏の眼には一種異樣の光がありました。

『見出したら必ず自分を嵌めると御約束なさいますか』

ベテーは頭を横には振つて笑ひつゝ、

『併其隅が精確と私に適合なくては不可です、あへば飛で參ります、私は子供の時から一人法師で除者で、居處が欲しくとも據處のない漂泊者でした。』

『可しい記憶てゐませう』とア氏もベテーの快活な

言葉に引込まれて元氣よく返事しました。
　ベテーの心中には既に何共云へぬ安心が洩て來て自分は此人の側では如何にも幼稚な小兒の心地がしたが、其で父滿足な思もする此紳士の落付た靜かな態度が強い力であるらしい。近きうちに養老院をラセル氏と共に訪問せんを約して別を告んとすると、ア氏は、
『私の樣な他人が貴女に一つ御注意申でよろしいでせうか』
『何卒』
『若自分の生涯が詰らぬ、空虛だと悲しく思ふ時には他人の爲を思ふて己を忘れて働くことです、我々は皆上より預かりし賜物を人々に施與る神の會計ですから』
『難有う御座います』と云ひ捨てベテーは眞面目な感想を浮べつゝ家の方へと歩を向け、
『彼人は眞實に善良な御方だ、私もあんなに成り度い事、何が彼人の心配なのかしら彼の顏は普通の顏ではない、自身の靈を上手に隱しゐるのが時々ほの見えて床しい事。私も神の會計かしら。併私には人に與へる樣な賜とは云ふ才能技倆は何もないのは悲いことだ』と獨言しつゝ家に歸りました。

第六章　境遇の變遷

『マット、御苦勞樣、疲れたでしよう。』
『ベテー樣這麼ことと位で疲れやせんわ、疲れた體は又直に治りやす。疲れる位が辛い事の關の山なら人間は僥倖でがんす。』
『それでは御前さんの心靈が疲勞たと云ふのだねー私は前日人さんから貰ふた金言を御前さんに上げよう、恰度適當だから、
　我はかれの途を知れり、我かれを癒すべし、又かれを導きて再び慰安をかれにかへすべし。』
『何んだ喋々文句を並べた丈だ』と盲人は呟く、
『マット、恁麼ことを云ふては不可ない、此は私の言葉でなく神樣の御言葉ですよ、神樣の御約束に嘘

僞がないだらう？」
ベテーは今日は一時間半もオルガンを彈たのである、彈く毎にマットは風入の御役をさせられるが近頃は馴れた理由が以前の樣に嫌がりもしないし、却てベテーの若々しい聲を聞く毎欣然するのである。
今ベテーの話が氣に障たものか、騒々して出て行かんとする盲人の外套を捕へたベテーは一生懸命で、
「マット、まあ怒らない御聽さ、私が出來る事なら御前さんを慰籍もし幸福にもして上げたいのは山々だが、是は神樣の外、誰も出來ないことだから、よくお聽！
『我は彼の途を知り』とは御前さんの心配苦勞を神樣が皆御存知で、『我彼を癒すべし』とは御前さんの心靈の碎けたのを全治し、痛や、苦を直して下る意味で、『我かれを導きて』とは神樣が御前さんを捨てない、何日も御前さんの側に居て下して、日々御前さんの手をとつて御導き下さるから、恁麼誘惑にも困難にも敗北ないと云ふことで、其から終の再び慰安を彼にかへすべし』と云ふのは舊約聖書にある『ヨブの樣な困難に遭遇て、凡てのものを悉皆取去られる事があつても神樣は忍ぶものには四倍にして返却て下さるとのことであるから、此以上を誰とて欲ふ事はないでしよう？」
老人は咳拂をして、
「お孃さんは偉大說法者でがす、せーなら」との捨言葉で會堂を大急で出て仕舞ました。後にベテーは深い溜息をつき自分の談した言が盲人の心中に染込んだとは夢にも氣づきませんでした。マットは淋しき我家に歸り宛然電氣にでも打たれた人の樣に呆然として座つたまゝでゐる、彼はベテーより聽いた聖句を徐々繰返してゐる中に其意味の美しく、又單純なることに優に氣が付いた樣で『俺の事を神樣が心に掛けて御座るとは思もよらん事だつた、俺が此苦痛事を、誰も癒してくれる人がねーのだて、矢張り偉大神さんにして貰ふが捷路だんだ。ウン、そうだと溜息つき〳〵獨言を並べて居たから茶を飲むこと

も忘れて仕舞ひましたが、彼の心靈の氷が徐々融け初めたのであります、其夜生命の種子が萠芽し出しました事など種子播た本人は少しも知りませんでしたが確に種子には根をもち、成長しだしたのであります。

ペテーは悄然として借りて居る牧師館に歸る庭先でラセル氏とマレとに出逢ひました。マレは嬉しそうに、

『爰へ來ました、ペテー、あのラセル様が卿と私とを食事に御伴れ下さる處ですよ、御母様は御許可下さいましたから、御伴れして戴て、今夜は望遠鏡で遊星を見せて戴きますのよ。』

『一時間も卿を待つて居たのだから、否應云はせず無理無體に伴れて行くのだから』とラセル氏が附加しました。

小供の爲

猿と人

みなさんは上野の動物園を御存じでせう。彼處にはみなさんのおなじみの鳥や獸が、澤山ゐることと思ひますが、あの赤い顔をしてキヤツ〱と騒いで居る猿も、きつとそのお馴染の一つでございませう。みなさんはあの猿がものを食べるときを御覧になつたことがありますか。一匹づゝにちやんと食物をあてがつても、お猿は決しておとなしく默つてそれを食べることはしません、よそ見やおしやべり丈ならまだしものことお互に他のお猿の食物をねらふのです。自分の食物があるのに、その方はお留守にしてお隣の猿のすきをうかゞつて、食物をぬすみます、かうしてお互にひとのをぬすみあひながら、そのくせ自分のを他の猿がぬすむところを見つけますと、なか〱默つてはゐません、『こら泥棒猿め』といふ見幕で、自分の泥棒は棚へ上げておいて、對手にくつてかゝります

吐鳴る、引つ掻く、それは〱騒ぎてす。ところが可笑しいことにはかうして無中になつて取つ組み合ひをして居るひまに。肝心の食物は、とんでもない所へはねとばされて、お猿同志は、痛い目をした揚句食物にもありつけない馬鹿な目をみるのです。みなさんも動物園で、こんなお猿を御覧になつたことはありませんか。

ところが人間はこれと大違ひで、お猿よりどれほど賢しいか、どれほどまさつて居るか、みなさんはよく御存じでせう。こんどはその人間のお話を致しませう。

或所に足を挫いて、長年間床に就いて居た人がありました。この人のお庭に葡萄の樹がありましたが、この人はその房がだん〱熟していくのを、餘念もなく毎日ながめて居りました。やがて見事に出來ましたので、家の人はその病人にこの初物をあげました。結構な物、わけても病氣で家に閉ぢ籠もつて居るものには、一しほ結構に思はれるものです。

けれど此の人は、熱病を煩つてこの頃やつと起きなほれるやうになつた、お隣りの人のことを思つてゐました。そこで女中を呼んで、

「この葡萄をお隣りへ持つていつて、あげてお呉れ。お隣りの方のはうが、私よりもご病氣が重いんだから。」

この葡萄を貰つた病人も深切な人でしたので、近所に住んで居たほかの病人のことを思ひ出し、初物で慰めてあげやうと、その葡萄をそのまゝ又よそへあげました。

ところが三人が三人とも同じやうな人だつたと見えまして三番目の人も亦女中を呼んで、

「これを角を曲つたところのお家の方へ持つていつてお上げ。お氣の毒な、あの方は足をお挫きなさつたんだからね。」

といひつけました。

ところがこの三番目の人は、一番初めの人と同じ人だつたのです。葡萄は見事な役をしたのです。め

い〳〵の人が葡萄を貰つてよろこび、又それを人にあげる、なほ大きなよろこびを味はつたのです。葡萄のたふとさは二倍にも三倍にもなつたのです。
少年少女諸君、お猿のはどなりあひをして奪りつこをするわがまゝな仕方です。人間のは、人に上げてよろこぶ、心の寛い仕方です。みなさんは、どつちをなさいます?

和歌

秋の歌とてよめる　　四宮道子

こすもすの揺らぐとみしはかぜならで
　あしたのつゆのおもるなりけり
かぜをいたみされて破れし芭蕉葉に
　しづく落つなり秋の夜の雨

亡き人を思へる　　寺西良造

人しれぬ思ひの淵にのこるらむ
　み空にきえし有明の月

廢宅

あれはてて月ひとりもる柴の戸を
　秋のしぐれのおどろかすかな

冬月

みぞれふる音のさやきて丘の上の
　小笹にきゆる冬の夜のつき

夕くれ酒田川をよぎりて

白妙のふじのたかねのみゆるかな
　いり日さしそふ薄墨のそら

友

語らはむふしもなけれど行きかふや
　あひおもふどちの心なるらむ

基督教一班（四）

外村義郎

第五回　十字架の意義（續）及聖靈

一體エスの人格の偉大であつたといふことは、この教に反對するものでも皆認めてゐるが、その人格の偉大な所は同情と愛に溢れてゐたまふた所にある基督がすゝんで十字架をとり給うた所に、その人格の偉大な處が遺憾無く表れてゐる。エスは斯の如く絶大なる御人格であるから、エスの前には人類の罪が赤裸々にわかる。それは罪なき人の前に於て罪は明かにわかるものだからである。實に基督ほど人の罪をよく認めてゐる人はない。しかもエスは御慈愛の深ひ方であるから其愛を以て人類の罪を自ら負うて下さるのである。ジョン、バンヤンが窓の外を索かれてゆく罪人を見て、「あゝ、あそこにジョン、バンヤンが行くと叫んだといふのは、即ち己が身にその罪人の罪を感じ自らその罪を負ふからである。即ち愛の結果である。况して尊きエスは我らの罪を負はずにはゐらつしやらない。いかに彼が私共の罪を負ひ給うかといふ事は、エスが十字架上に、「父よ彼等を赦し給へ、そのなす所を知らざればなり。」と仰せられ「又わが神わが神、何ぞ我を棄て給ふや。」と叫び給ふたのに明かに表れてをる。實に基督は罪を負うて自ら罪人となつて下さつたのである。而して十字架上に死に給ふたのである。一體死は「罪より來る」とある如く、疊の上で死んでもそれは罪より來た死であるから、一種の變死といつてよい。然るに罪人であつてもすでに罪から救はれた信者達の死は實に美しい。母の懐にある愛兒がこの室よりあの室に移される樣です。

エスは御自身には罪がないのに、吾々の罪を負うて十字架の死の苦までも受けて下すつたのである。

から、其苦しみはそふぞうすることができぬ程の苦みである、なにしろ彼れは吾々の罪に對する責任を全く果し給ふたのである。而してこの死によつて神の御心は和げられたのである。しかし又考へてみると、人の罪の深さはどうであらう。遂にエスを十字架にさへ付け奉つたので、實に何とも恐しい事である。これを思ふと此の罪を悔いて赦されたいと求めエスを信じエスに縋らずには居られない。茲に十字架は又人々をして罪を悟り悔改めと信仰に導き神と相和がしめ親しましめ一致せしむるのである。

實に基督の十字架は私共の救ひである、パウロが此十字架は我儕の智慧であり又能力である我れは十字架のほかは宣へ傳へぬと云ふたのは尤もな次第であります。

次に聖靈の事をごく〳〵ざつとお話致します。

聖靈は我らの心に神を現し基督を現す所の神であつてすべての人の心に囁いてゐる。しかし聖靈はたゞ漠然としたものではなく、やはり人格的のものである。別言せば勝利を得た基督の靈であります、然し私共は最早聖靈を受けて居るものでありますが更らに大切な事は聖靈に滿たさるゝ事である。みたまに充たされるといふのは、即ち基督御自身が神御自身が私し共の心に充ち滿ちたまふ事である。即ち自己が神のものになることであります、基督教は聖靈の宗教といふてもよい。父の神、子の神、聖靈の神を三位一體の神といひ、我らはこの神を崇め信ずるのである。

第六回　基督者とは何ぞや

基督者になるといふのは、父なる神の御心にかなふ所の子供になることである。

人はみな神の子に相違ないけれども、多くの人の中には子にして子ならざる子即不孝ものが多いのである、信者になるのは實に神の喜び給ふ所の孝子となる事である。それから考へてみると、私共はどうしても生れかはる事が大切である。この生れかはる

事が信者になる大切な條件であり又資格である。さらば生れかはらない人心の狀態はどんなかといふに、丁度母の胎內にある子供と同じ樣なものであると思ふ、即ち生れ出つる前の子供は、母の胎內にあつて總ての機關は完備してゐても、眼は見えず、耳は聞えず、自分のちからで呼吸もできず手足も自由に動かせず、たゞ一條の臍の緒によつて生命を保たれてゐる。これが天地に產れ出た時には始めて諸の機關は自由にその働をはじめ、こゝに完全なる一個の人となるのである。我等は其胎兒の樣に罪のうちにみごもつて居るのである、生れかはる時は始めて自ら神の靈氣を呼吸し靈の眼も耳も開け、手足は神のために働き、まるで別天地に生活するが如くになつて、未信者の時經驗することのできなかつた感謝や悅びを經驗する事ができる。

世人はよく信者といへば完全な者にきまつてをるやうに思ひ、よくその行を批難するがこれは信者にとつては實に光榮な事である。しかし信者は決して完全なものではなくて、完全になり得べき生命を與へられたものである。道德家の眼から觀れば、信者の道德は現在は低いかもしれぬが、信者は進步發達する生命を有つてゐるからして、次第に道德家の道德を凌駕するやうになる。基督者は餓ゑ渴く如く義を慕ひ、完全ならん事を求むるものである。

信者は新しき生命を得たものであると共に、この汚れた世から聖別されたものである。

然らば、かういふやうな信者になるにはどうしたらよいかといふのに、それはエス、キリストを救主と信し、己が罪を認めて悔い、心を改める事である。しかし信仰は決して壓制的のものではなく、この教を聽く事によつて信仰は生ずるのである、即ち信仰は聽くより出で聽く處は初に言はる、による也とあります。又信仰はたゞ信仰するばかりではいけない、信仰すると共に任かせることが大切であります。即ち信仰は信任であります。

どうか私共も、キリストに信任して全く神の子となり、全く神の御ために生きたいものである。キリスト信者とは如此ものを云ふのであります。

○東京基督教女子青年會

○音樂會　二月二十七日上野音樂學校に於て東京女子青年のため音樂會を開催することとなるが、この催は全く鈴木信子女史の盡力に據るものにて、同女史は東京府立第一高等女學校音樂教師にして、特に厚き同情を以て御奔走せらるるは感謝に堪えざる所なり。

●●●●●

●女中の親睦會　一月二十二日には本會の事業の一なる『旅行者の友』にて係員の手を經て現今奉公中の者廿六名を招きて親睦會を催す。三人四人連れだちて或は主家より送られて集まりし者十九名蓄音機を聞き他愛なき遊びに笑ひこけ茶菓を喫し、河井幹事の解りやすき奬勵のお話あり『めさめよわがたま』の讃美を唱ひ祈を以て會を終り紀念にとて羽織の紐を分ちて四時過ぐる頃林松崎兩姉に導かれて各かたがた喜びつゝ主家を指して別れ行きぬ、彼等の何れもがよき主人を與へられ已れも心安く働き得る喜悦は口にこそ出さね其眉宇に現はれて當局者に愈々感謝の念を增さしめぬ、且又林、松崎兩姉に對し恰も親の如く慕ひて久しぶりの對面を喜ぶ樣ははたの見る目にも美しきものなりき。

●●●●●

▲新入會員　左の如し

陶山ヨネ子　橋爪ナカ子　小林まつ子

○サクラメント女子青年會來信

謹啓主の御恩寵の下貴會益々御清榮之段慶賀候、御送附の十一月分女子青年界今日拜受仕り候、代價として米貨五弗也御送り申上候間御受取り下され度候、尚引續き購讀致し度候間乍御手數御送り下され度候、當會は未だ創立日淺く萬事整頓いたさず候も新年と共に大いに活動致す計畫に候、就ては是非貴會の御盡力を御願ひ致し何卒妹分として御指導下され度願ひ上候、目下幹事選定中にて小生代理を致し居り候も次の度よりは婦人會員中より御願ひ致す事と相成る可くと存じ候、貴會の上に神の裕なる祝福あらん事を祈る云々。

●女子青年會聖誕祭　十二月二十四日牛込なる本部に於て東京女子青年會聯合にて催す、會員、聖書研究會員數十名集會す、讃美歌、河井幹事の祈禱にて開會し恩地姉のお琴、ミス、チヤペル、ミスアズグードの合唱、獨唱蓄音機のクリスマス讃美歌等ありて後救世軍大佐山室軍平氏熱誠溢るゝばかりの言を以て「比諭に於ける基督」てふ題の下に講話され同氏の祈禱を以て一先づ閉會し後本會委員諸姉より贈られし茶菓を喫し相知れるも知らざるも親しく談笑して主のみあれと祝し合ひ日も暮れなんとする頃袂を分ちぬ。

○青年會日曜學校聖誕祭　十二月二十三日午後六時から本部の田町日曜學校と東京青年會の三番町日曜學校と合併で東京青年會内に開かれました、當夜集つた兩日曜學校生徒八十人餘それに生徒の父兄二十人計りを合せて百人以上の來會者で、さなきだに狹き御座敷は二間とも一ぱいで御座いました、部屋の一隅に立てられた　きな且色々の飾をつけた目も覺むる樣なクリスマスツリーの燈が點ぜられさあ入つてもよろしいと許されて入り來る子供等の歡喜に滿ち溢れた無邪氣な顏はまるで天使の群の樣でした。やがて司會者の開會の辭を以つて始められ聖書朗讀祈禱の後、諳誦、對話、御話など二十三、四のプロクラムは順々に進み終りに贈物と蜜柑を分配し四百十八の讃美歌をもつて八時半頃終りました。

○寄宿舍降誕祭　十二月二十二日の午後六時半から納戸町第一寄宿舍に於て開かれました、安藤坂第二寄宿舍々監山本まち子姉會を司り牛込敎會牧師田島先生の「クリスマスの與ふる三敎訓」てふ題の下に最も私共青年女子に適切なるこの時節にふさわししい御講話がありミス、アズグードの獨唱をもつて一先づ會を閉ぢ次に親睦會に移りました、二三有志の彈琴、琴オルガンの合奏有志の合唱などがあり時のうつるを覺えず、茶菓の饗應を受けつゝ第一第二兩寄宿舍生及數名の來賓共にうち交り親しく談笑し名殘を惜しみつゝ十時頃お暇を告げました。實に斯く心おきなき家庭的のクリスマスに列する事の出來ました事を感謝いたしました。（招かれし者の一人）

○好友園の聖誕祭　十二月二十四日午前十時半より擧行す園兒四十四名父兄四十八名新渡戸夫人ミス、カフマン、ミス、ページ河井、中江諸先生も御出下され朝の輪（クリスト御降誕の問答歌等）バプテスト敎會牧師今西先生の父兄への御話、遊戯それより父兄への贈物（二週間前頃から園兒各が兩親に贈る爲め專心造上げしもの）園兒への贈物を分ちぬ、之は新渡戸夫人よりの蜜柑河井先生よりの雜誌其他オテダマ綿製動物紙製の鳩笛小さき手にはもちきれぬ程の贈物を抱へて喜び居る樣御寄附下されし諸姉に御目にかけたく思ひし程なりき

又翌二十五日午後三時より當好友園に於て當園日曜學校と安藤坂日曜學校と合併の祝賀會を擧行し生徒は百七十名（安藤坂五十名好友園百二十名）にて各生徒の聖書暗誦對話遊戯唱歌英語對話英語唱歌等あり大槻敎師の「受くるより與ふるは幸なり」のお話陶山敎師の祈を以て午後五時半頃閉會せり、當日は河井先生より中學科生徒十名への聖書納戸町寄宿舍生の方々よりのカルタなど共に思ひ掛なき贈物を手にせし兒童の喜は一方ならざりし。

個人消息

○ミス、ダージ　米國合衆國女子青年會々長なる同孃は十二月二十七日突然逝去せられしとの訃音ありたり當青年會は玆に同孃の永眠に對し深く哀悼の意を表す。

○ミス、ワトネ　英國に歸國靜養中なる同幹事は今回パークレー氏と婚約なりたる由。パ氏は從來島根縣松江市に於て傳道に從事せらるゝ教師なり。

○内田文子　神戸女學院出身の同姉は昨年米國ブリンマー大學奬學金試驗に合格、一月十六日米國へ出立。

○外村梅子　外村(義郎)氏方にて昨年末女兒出產母子共に御壯健。

○加藤さく子　男子御出產母子共御壯健目下東京麻布富士見町二十八番地に住居。

○廣岡浅子　日本女子青年會中央委員同夫人は席溫まる暇もなく各地の協同傳道に參加され一月中は三重縣及名古屋市の傳道を應援されたり。

○ミス、ダルトン　女子青年會附屬外國人宿泊所を創立及維持の全責任を負はれし同姉は都合により一月二十八日英國へ出帆。

○ピカスデス夫人　本會「旅行者の友」の委員長なる同夫人は永らく御病氣なりしが追々全快に赴かれしも醫師の勸めにより靜養のため生地英國にむけ一月三十日出帆。

○河井道子　二月上旬仙臺宮城女學校開催の修養會に列席の筈。

○ミス、カフマン　醫師の勸めにより一ケ月ばかり鎌倉にて靜養。

○新渡戸琴子　目下鎌倉にて靜養中。

○ミス、レーガン　一月中仙臺横澤つぎ子姉を訪問。

○竹尾けい子　水戸を辭し東京府立第一高等女學校に轉任、目下安藤坂女子青年會寄宿舍に止宿。

○芝原する子　救世軍に入隊、四谷本村町の救世軍士官學校内に轉宿。

○菅野德助氏　先頃好友團に働かれし菅野田鶴子姉の夫君にして永々病氣の處一月十三日永眠さる。

○太田時敏氏　東京女子青年會々長新渡戸マリ子夫人の叔父君なる同氏は十六の高齡にて一月二十日永眠さる。

○グリーン令夫人　駐日英國大使夫人は先頃當女子青年會にあて英國出征兵士のため靴下手袋等の編物に對し鄭重なる謝辭を送られたり。

○小寺幸子　安藤坂女子青年會寄宿舍にありて共立職業學校に教鞭を取り居られし同姉は今回農商務省より選拔され造花研究のため佛國に留學の命を受け香取丸にて一月下旬出帆。

○大谷ろく子　横濱捜眞女學校出身なる同姉は今回米國加州ロサンゼルス、日本婦人女子青年會幹事に招聘せられ近々赴任の筈。

○上野梅香子　信州上田なる同姉は北海道なる姉君俄に永眠されしため該地に赴むかれし由。

讀者便り

○求道者に「女子青年界」を封して送る

弘前　淺井はる

今日は折角の日曜日でございますが、いやな〳〵日直に當りまして朝から、夕方まで學校に居らなければなりません、ガランとした校舎の中で一人で禮拜を致しました、思の外心が落着いてよく神様とお交り致す事が出來た様な氣がいたします。その後で女子青年界を繰り返し讀みました、それは今日は前にも申しました様に日直で敎會に參る事が出來ませんから牧師の御說敎を伺ふつもりで女子青年界にのつて居ります諸先生の講演を拜讀いたしした次第で御座います。殊に木岡氏の「個人傳道」は私の只今の境遇上熱心に拜讀いたしました。私はまだ〳〵人々を愛する心がうすい事に氣づきましたそして傳道の爲に己れが日々費す時と勞力との殆ど皆無なる事、その心掛のうすい事、其の爲に祈る事の僅かにして且不熱心なりし事を切に感ぜずには居られませんで御座いました早速卒業生中の求道者に古い女子青年界を封じて送る用意をいたしました。ハガキも二三枚かくつもりで居ます。此後も絕えず此の心掛を續けて參りたう御座います。青年會から拜借いたしました書籍はまだ全部返つて參りませんから何卒もう少しお借し下さいませ。高等女學校の生徒だけの日曜學校は都合によりまして他の人にゆづりました、もし女子青年會が當地に設けられましたならばそれは學校の生徒とは關係のない事で御座いますから助けさせて頂き度う存じて居ります、學校の生徒と敎師とが學校以外に特別な集りをいたす事はいけないのだそうで御座います。青年會は私の學校には何も關係なく弘前女學校の方に所屬した會で御座いますから私は公然其の爲に働きましても差つかへがございますまいと存じます。當地青年女子の爲に何卒御祈り下さいまし。

○サンタクロース様は知つて居るね！

臺中　高水はつ

十二月廿五日のクリスマスには御子供等が眠つて居る間にクリスマスツリーをこしらへ色々の贈物をさげたり與して喜ばせて上げました、色々と面白う御座いましたが其の中の一つを申上げますと私が政治氏と富美子さんに贈物にそえて手紙をかき「良き子供になられますと次のクリスマスには何よい贈物を澤山に持つて來ます。」サンタクロースよりと記しましたら二人がよく何んでもサンタクロース様は知つているね！と申して感心して居られた事です、其の様子は實に愛らしいものでした、夜は敎會に參りましたが歌なども皆よく出來、皆様が近年にないよいクリスマスでしたと申され、殊に雨天後の道惡にも拘らず敎會に入りきれぬ程澤山の會衆でしたので一同大喜びを致しました。

○肉體の目が閉ぢられ心の目が開かれし

水戶　松井勝子

女子青年界を每度シャープレス先生の御宅で拜見致す事を得、心强く覺え引きつゞき有益なる御敎へを學ぶ事を得候、私も今春の内に上京致す考に御座候、暫く御心配いたゞきし眼も、只今にては全快同様に相成り候へばこれ又御放念下被度候、神様の深き御めぐみを思ふ每に肉體の目が閉ぢられ心の眼の開かれし己が幸を御禮申さずに居られ

ず感謝致し居り候。

○「女子青年界」が大好きです

三島　渡邊文江

謹んで新年を御迎へ申上げます今度私事思ひがけなく病氣になりましたが、もう今はすつかり全快致しましてピン〳〵致して居りますから何卒御安心に被まし。私はあの「女子青年界」が大好きです、いつも〳〵月初めになりますと學校から歸へり直ぐ母に青年界はと尋れます、そして大抵の事はおいて直ぐ讀みます、青年界を見るのが一番樂しみですよい事を覺えますから。去年のクリスマスに私は御客樣になつて教會に行きました、一昨年程には賑やかで御座いませんでしたがよい御話しを伺つて參りました。

○歌の練習に忙しう御座います

福井　栗原よし

東京時代折々マクドナルド先生からおすゝめ頂戴いたして居りましたが家の事情などの爲にいつまでも頑固に拒むで居りました。當地に參りまして以後は教會には絶へず出入してをりましたから三年目の今まで信仰は多少あつたと確信しますが受洗の決心にはいたりませんでした、今回斷然決心して僕の一人となるの光榮を受けさせて頂だき誠に喜びにたえぬ次第で御座いま名ばかりの信者で誠に恥かしいので御座いますが愛の神は必ず惠みをたれ給ふて私如きものをも何かの御用をさせ給ふ樣に用ひ下さる事と信じて自分の全力を盡して居ります。受洗後の今の喜びは受洗前に到底想像のつかぬもので御座います。殊に田舍の小さい教會での日曜毎の集りは誠に家庭的で會員それ〳〵眞面目な親切の人々のみいかにも小天國の觀が御座います。からした平和な空氣の滿ち〳〵た處で信仰は養はれるとつく〳〵思ひます。毎日曜禮拜前一時間英語の聖書の組が御座いまして私は下手な通譯をさせて頂だいて居ります女學校の生徒達に少しでも神を知らせたいと思ひまして此クラスへ出る事をすゝめて居ります。英語を覺えられるといふ點からでもありませうが今では上級生は中々熱心に參りますので喜んで居ります。クリスマス前で歌の練習に今忙がしう御座います。女子青年會の御事業好友園や旅行者の保護などどれ丈社會を益して居るか大したもので御座いませう微かな私共にはとても充分な御手傳は出來ませんが少しばかりでは御面倒でせうが本日振替で送金いたします故よろしく御使用を願ひ申上げます。

○田園生活は單純なる生活

鹿兒島　青山英子

喪中に候まゝ新年の御挨拶御赦し被下度候。私事當加世田と申す田舍に參り候てより一日も休みし事もなきまでに丈夫に相成り終日一人で働き居りよくも用があるものかなと時折りはふき出し居り申候、他家の御菜や大根は肥へ居り候へども私共のは誠にやせて自分ながら可愛想なやうに御座候つるし大根も只今は軒下に一ぱいに相成り申し候、大きな鍋の目ざしは澤山に作り申候へども東京までは送り兼ね候うちに鼠の餌に相成り申候、田舍の生活は單純なる生活が身に合ひ候てか氣候が適し候にや近頃はめき〳〵と血色もよろしき由一同が申され居り候、鹿兒島は海邊に候まゝ三日滯在いたし居り候へば病人に相成り候故いつも用濟み候へば歸加いたし全くの鹿兒島ぎらひに相成り申候。自然の御囁きを伺ふには實によき處に御座候朝には月の光に水を汲み夕べには星のきらめきに我が姿を映じて凡ての物を感謝いたし候時自分は現在も過去も亦將來を忘れて何處にあるかを思ひ申候。神樣の御翅の下に養はれて育てられやがて生ひたち候日には亦何かに役

に相立ち候事も候はんと都に歸る時を樂しみに相まち居り候。

○レーガン幹事を迎へて

仙臺　横澤つぎ

東京のレーガン先生が今度私の家に兩三日御出で下さいました、先生は二日の朝當地につかれまして弟妹と私とで御迎へに參りました。その日は一日御湯に入つたりしてからオルガンを彈いて頂いたり何かしました、子供が先生の處へ羞かしがつて始めは參らずに居ました殊に一番下のは一度は泣いたりした事もありましたその夜父母も來て子供達とゲームをして遊びましたが途中から先生は病氣になられそれをかくして無理にされたものでそれは大變に惡るかつたのです、私は泣きたかつたのです先生に御氣毒で青い顏して立つて居られたのを見るにたまりませんでした、母には出來る丈かくして置きました、私が日中無理にも横におさせ申さなかつたのが惡るかつたのでせう。その夜は先生のそばに居て寢られませんでしたが少しもつらいなんて事ない處が却つて樂しう御座いました。翌朝十時に起きました教會へは最早や行かれませんから二人で山に行き聖書をよみ歌を歌ひまして歸へり晝の食事してから村の日曜學校に行き先生も御話しして下さいました私が通譯したのはいゝのですが大下手でした、あの日曜學校にも先生が出て下さつてオルガンは彈いて下さるし話しはして下さるしいゝ記念になりました且皆も大變によろこびました、それがすむと二人で宮城女學校へ行き先生の御友達と竹中先生とに御目にかゝりました歸つたのはもう夕方でした、その夜は此度は父が惡るくなりましたが二人はいろ／＼の話をしました、翌朝一番の汽車にて鹽釜に行き此度は汽船で松島に上りました、宿屋は何處がいゝかよく聞いて來なかつた爲にとんでもない名ばかりいゝのに行きおかしく成りました、始め御飯をたのみましたが何等宿泊とも申しませんでしたが後に少しも上等にせんと申ましたらば宿屋では女中達は皆急に着物をきかへ、火は入りもしないのに二つにしたりそれは／＼變つた待遇におかしくて私は笑つてばかりゐました食後案内につれられ寺や岩穴を見、その人を歸へしてから二人で暗くなるまで山を歩き廻りました。餘り歸へらなかつたもので宿屋では逃げたとでも思ふたらしく迎ひの人も來ました、湯に入り食事をすまして樂しく一夜を語り盡しました。その夜うちへ電報を打ちましたそれは朝十一時に仙臺を通過と申して來ましたが時間をかへて十二時にしたのです、處が私は午前と午後と違へた爲、宅では夜中に停車場に出たとは私は實に先生へも宅へも濟まぬ事でした、「女子青年界」の内容日に／＼進んで行く樣に思はれます此間も昔のと比べて見てうれしくて成りませんでした、札幌の生徒が御金を送つたと見え五六人の受取りがありこれ亦嬉しく思ひました、札幌の人達にて御金を送る節は本部へ送ることをよく知らぬかもしれません、何にしても札幌の生徒がなつかしく思はれます。

○叔父が一同にクリスマスの話をした

岡山　多賀艶

十二月廿四日獨りで自分の持物から作つたり割いたりして贈物を包んで自分の寢室にかくして置きました、小さき弟妹安郎と達子が寢る迄に交る／＼二十度以上嬉しさうなても心配想な顏で「お姉さんほんとにサレタクロースが來るだらうか」と聞くのです、彼れ等はこのおぢいさんが慥かに居るとは信じ切つて居るのですが今迄に來た事がないから此の家を知らないだらうと心配してゐます。のご「私の部屋の

雨戸を明けて寢て居るから大丈夫お姉さんが呼び込んで上げる」と言ひ聞かせて早々寢かせました、其の夜は風呂の下で焼いた暖かいお芋で讃美歌を妹と歌ひながら心樂しい靜かなクリスマスイブを暮しました、いつも寢る前欄干で美しい星を見乍祈るのに此の夕に限つて星が見えなかつたのは心殘りでした、其夜は小供が朝起きる前に贈物を枕邊に置かないと失望すると思つたので心配で幾度となく目が覺め其の度に空の星をながめ昔のユダヤの野邊の有様を其の背の事の樣に思ひ浮べました、疲れて曉一寸まどろむ時に隣の床の安郎が「メリークリスマスー」と大きな聲で叫んだので目が覺めランプをともす前に贈物をそつと置きました。第一の質問は勿論「サンタクロースが來たの」ランプの光で贈物の有るのを見て「やあほんとに來た來た、お姉さんは逃つたの」無邪氣に信じて日頃から樂しむでゐた小供の友新年號の美しい頁を一々に繰りて讀む樣は實に何とも言へぬ感、平常は一枚でも有難がる繪葉書が今日は新らしいのが二十枚、喜ぶのも無理はない、それから二人で下りて母家に歸ると大きな妹のみどりが丁度ランプで髮を結ふてゐたので「メリークリスマスー」と言ひ換した時、小さい達子が母の床の中から「メリークリスマス！」サンタクロースの置いて行つた人形を抱いてキヤツ〱言つて居る、それから四人で音させぬ樣、隣の無花果の下で「もろびとこぞりて」と歌ひ出した時、朝の空氣に其の聲が滿ちた時眞にクリスマスが來たと思ひました。濟んだら隣家の叔父と叔母とが「メリークリスマス」と言ひました、歸つて寒い冷い風の中に紅梅の咲いた下で四人でサンタクロースの話をした時、私はつく〲「クリスマス」の歌を歌つて上げる叔父叔母のある事を感謝致しました、東京に在學せる弟が今年はクリスマスが出來ないと云つてあつた葉書がきて廿七日に歸着く事とあつたので歸つて父の居ない淋しさを感ぜさゝぬ樣にと旁々思ひ家族のパーテーを其の廿七日の夕方開く事にしました、廿六日に横澤さんと同姉の御母樣からとの贈物が來たので御母樣の方を開かないで廿七日のパーテーの爲にとつて置きました。廿七日の午後弟が歸りました時は座敷の隅にクリスマスツリーが既に飾られてありました、歸つた弟がすぐ佛前に行つてから次の間で涙を拭いてゐるのを見た時私は奥の間で涙の流れるのを止めかねました、丁度岡山の女學校に行つて居る私の妹が英語を習ひに來て居るのでそれ達と安郎とに種々のものを教へて順序書を作りました。母はお客の掛り、みどりは例に依つて椽の下の力持ち何くれと働いてくれます招いたのは叔父母、南隣の百姓の子供六人とその御ばあさん（ミスレーガンから借りて讀むだ物語を思ひ出しました）、扨て八時頃月が明るく照つて星がきらめく頃小さい愉快な部屋には明るい木がともされました都合十五人の集り。小供はみな（二人の他は）赤い丈夫な頬をした男の子許り。弟のために折角のばした此の會が始まつた頃は彼は汽車の疲れて次の間にグツスリ寢て居りました、殘念でしたが起すのは可哀想ですから。アー基督教には緣遠かつた此の家に最初のクリスマスツリーが飾られたのでした。然かも丁度一年前のその時は病苦になやむ父が臥せてた同じ部屋に。日頃小供の知つて居る「あさひは上りて」を以つて始め祈りをした時は家中に天使が舞つて居り殊に何も知らずに寢て居る弟の上を天使の翅の音が聞えて居る樣でした。そして父も神の思し召しで昨年は苦痛の内に臥せて居た其の肉體から取り去られて今は神御自身の傍でクリスマスを祝ひ然して後に殊に家族の者に何の妨げもなく愉快にクリスマスを祝はす樣に遊ばした神の攝理を思ひ考へた折、祈りつゝも感迫つて、感謝しつゝも何となく悲哀を感じ涙が出て暫時語がつゞけられませんでした、叔

父が一同にクリスマスの話をした時に彼も又此の保守的な家でクリスマスを祝ふ時が遂に來たと云ふ事を深く〳〵感じた様でした、それから順々にプログラムを面白く濟ませ第二部の餘興に移る折、蜜柑だの仙臺からの餡だの石渡さんが送つて下さつた煎餅だのを一つ〳〵説明して出したので一しほ喜びました。それから活人畫だの弟のサンタクロースだの豆たゝきなどと我を忘れて遊むで終つたのは十時半でした何んなにみなが喜びましたが私は其夜は涙の感謝を捧げずには居られませんでした、實に幸ひで御座いました、今迄迎へた降誕祭の中で一番幸福なものでした、それと云ふも今年は與へるクリスマスでしたからと存じます。

○會友申込（本部報告）

（維　持）久野　久子

（普　通）松村　てわ　加藤　とく　栗原　芳子

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

森田　貞子（自大正四年一月 至同　年十二月）　松村　てわ（自大正三年二月 至同　四年一月）

松田　縫子（自大正四年二月 至同　五年一月）　栗原　芳子（自大正四年一月 至同　年十二月）

加藤　とく（自大正四年一月 至同　年十二月）　久野　久子（自大正四年一月 至同　年六月）

三田　靜子（自大正三年十二月 至同　四年十一月）　河井　道子（大正四年一月分）

高倉　專子（自大正四年二月 至同　五年一月）　藤田　とき（自大正四年一月 至同　年十二月）

金貳圓也　高田　常代（自大正四年一月至同年十二月）

金壹圓五拾錢也　松岡　琴子（自大正三年十一月至同五年四月）

金壹圓六拾錢也　ミセス、フライ（自大正三年六月至同四年五月）

○雜誌「女子青年界」代金領收

金七拾錢也

井上　靜子（自大正四年一月 至同　年十二月）　阪本　花代（自大正三年五月 至　同四年四月）

植野　君代（自大正三年九月 至同　四年八月）　延原貞子（自大正三年六月藤田氏 至同四年五月拂込）

加藤　桃代（自大正三年十一月 至同　四年十月）　辻　浪子（自大正三年十二月 至同　四年十一月）

土生　芳乃（自大正三年十一月 至同　四年十月）　新島　善道（自大正三年十月 至同　四年九月）

野口　幽香（自大正三年一月 至同　年十二月）　宮崎　まい（自大正三年十月 至同　四年九月）

長尾　咲子（自大正三年十二月 至同　四年十一月）　菅　敏子（自大正四年一月横澤氏 至同年十二月拂込）

山口いち（自大正四年一月横澤氏 至同年十二月拂込）　遺愛女學校（自大正四年二月 至同　五年一月）

進藤　千代（自大正四年一月 至同　年十二月）　高折かなを（大正三年十二月號 十部代）

木岡　峰子（自大正三年十二月 至同　四年十一月）　ミスホイテ（自大正三年十月 至同　四年九月）

徳久愛子（自大正四年一月鶴野氏 至同年十二月拂込）　ミスブゼル（自大正四年一月 至同　年十二月）

内海まん（自大正四年一月 至同年十二月）
ミスハート（自大正三年十一月 至同年十一月）
水澤ふく（自大正四年三月 至同五年二月）
小泉ふみ子（自大正三年十一月 至同四年十一月）
廣岡とめ（自大正三年一月 至同年十二月）
吉川いく子（自大正三年十月 至同四年九月）
ミスゲルハート（自大正三年十月 至同四年九月）
ミセスグリグス（自大正三年十一月 至同四年十月）
金壹圓四拾錢也
戸塚しも（自大正三年四月 至同五年三月）
河本かめ（自大正三年一月 至同四年十二月）
ミスウヰルカックス（自大正二年九月 至同四年八月）
金壹圓也 多比羅たか（自大正三年四月黒田氏 至同年七月排込）
金九拾錢也 宇都宮クリスチャン女學校（自大正二年五月 至同四年四月）
金貳圓八拾錢也 青山女學校手藝部（自大正三年一月 至同四年十二月二部代）
金貳圓〇五錢也 ミスビイデイ（自大正 年九月至同四年一月）
金貳圓廿四錢也 石川靜子（大正三年十二月號三十二部代）
金五圓六拾錢也 共立女學校（大正三年十 月號八十部代）
金六圓〇九錢也 同（大正三年十二月號八十七部代）
金貳拾壹錢也 小林松子（自大正三年七月至同年九月）
金貳圓拾錢也 菊地幸代（自大正三年十月至同四年九月一部及 自大正四年五月至同五年四月壹部代）
金七拾四錢也 永山チカ（自大正四年二月至同五年一月）

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome,Tokoy

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasure
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Emma R. Kaufman
Miss M. Baker General, Yokohama

本誌定價	
一部（郵共）	金七錢
一ヶ年分	金七拾錢
海外	金拾壹錢
	金壹圓廿四錢

廣告料	
一頁	金六圓
半頁	金三圓五十錢
四分ノ一	金貳圓
一行	金貳拾錢

大正四年一月廿八日印刷納本
大正四年二月一日發行

發行所 東京市牛込區田町三丁目十二番地 日本基督教女子青年會
編輯兼發行人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市芝區櫻田和泉町七番地 前川吉次郎
印刷所 東京市芝區櫻田和泉町七番地 三成舍

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵發し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍の設備有り將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　每年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子
副委員長　岡見惠子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員
河井道子

委員
津田梅子(東京)
エ、ピ、ウエスト(東京)
鈴木歌子(東京)
小此木松子(東京)
長谷川喜多子(東京)
サラ、エリス(東京)
イ、クレメント(東京)
山田千代子(横濱)
廣岡淺子(大阪)
ケー、トリストラム(大阪)
エム、エフ、デントン(京都)
佐伯小糸(京都)
松田道子(京都)
エス、ツール(神戸)
上代淑子(岡山)

幹事

總幹事(本部)　河井道子
同(同)　エ、シー、マグドナルド
書記(同)　アール、レーガン
總幹事(東京)　エム、エル、マシウ
幹事(同)　シー、アール、ワトネ
特志幹事(同)　エム、ペーヂ
幹事(横濱)　エム、ベーカー
事務員(本部)　河口正子
事務員(東京)　大呑久子
旅行者の友係　林ふさ
松崎滿喜
幼稚園主任保姆　大槻愛子
幼稚園助手　永野睦子
寄宿舍監(第一)　門倉ぶじ
寄宿舍監(第二)　大西絹子
宿泊所取締　ミス、ダルトン

東京市牛込區田町三丁目十二番地

日本基督教女子青年會本部

女子青年界第拾貳卷第貳號

大正三年一月廿八日印刷納本大正四年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可